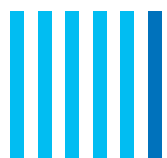


北九州市立大学
地域共生教育センター

ラボ・レター

活動報告書 2024

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたいという
思いを込めたお手紙 (レター) のように作成しました。
これまでの活躍への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのよう手に取っていただければ幸いです。



421Lab.

北九州市立大学 **地域共生教育センター**

Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)

[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4088

[E-mail] info421@kitakyu-u.ac.jp

[OPEN] 10:00 ~ 18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

『X』で活動の最新情報を発信中

[X.com/421lab_students](https://x.com/421lab_students)

発行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)

発行日：2025年3月

編集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)

協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様

制作：株式会社福田印刷

北九州市立大学
地域共生教育センター

ラボ・レター

活動報告書 2024



ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）は、2010年4月21日の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生たちを支援して参りました。お陰様でこうした取り組みも2025年4月から16年目に突入しようとしています。これまで多くの学生たちが、主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。

これまでと同様、2024年度も新たな展開がありました。例えば、「国際開発プロジェクトThaksina」が新たなプロジェクトに加わりました。タイ南部のパットルン地域の経済開発とタイの学生との交流を目的とした活動です。また「子ども食堂応援プロジェクト」では、北九州市初になる、学生が運営する「まるっと食堂」をスタートさせました。

2024年1月、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する能登半島地震が発生しました。地域共生教育センターでは、「KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト」が、発災当初、募金活動を行いました。また災害時緊急支援チームとして3回にわたって被災地派遣を行いました。被災家屋の片づけや倒れたブロック塀の撤去、仮設住宅で暮らす被災者の方々へ訪問させていただいた学生たちからは、復興の難しさやこうした支援活動の必要性を訴える声が聞かれました。

学生たちがこうした活動をさせていただくことができるのは、普段、学生たちのことを暖かく、そして厳しく応援してくださる地域の皆様の力があるからこそと考えています。今後も「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の基本理念を大切にしていきます。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月
地域共生教育センター長
西田 心平

421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための 4つのステップ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

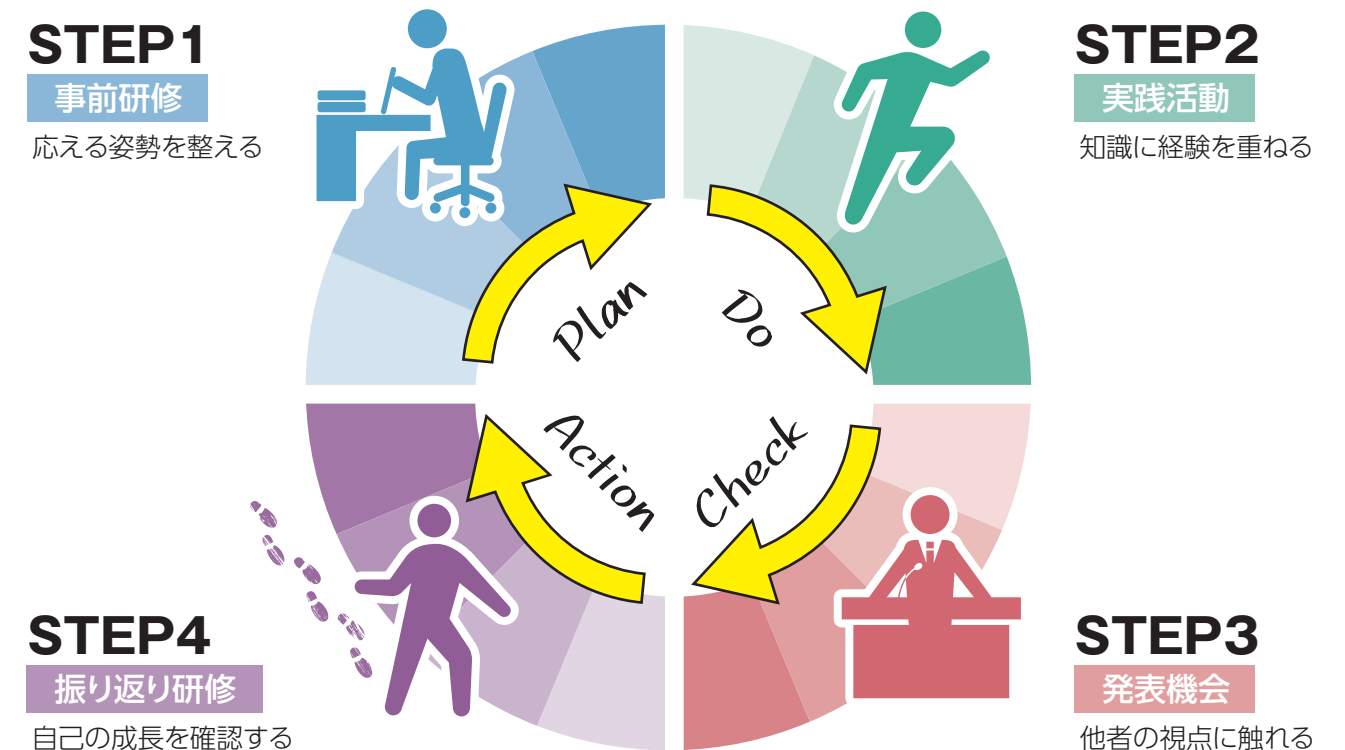
しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前研修」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

INDEX

- 3 421Lab.の「体験だけでは終わらない」ための4つのステップ
- 4 STEP1 事前研修
- 6 STEP2 実践活動
- 8 421Lab.学生運営スタッフ
- 10 KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 11 防犯・防災プロジェクト (MATE's)
- 12 421Lab. わくわくキッズプロジェクト
- 13 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 14 『食』から学ぼうプロジェクト
- 15 子ども食堂応援プロジェクト
- 16 動物福祉プロジェクト
- 17 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 18 TFT × KitaQ univ. プロジェクト
- 19 国際交流プロジェクト FIVA
- 20 地域クリーンアッププロジェクト
- 21 まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 22 青空学プロジェクト
- 23 平和の駅運動プロジェクト
- 24 英語で遊ぼうプロジェクト
- 25 北九大もったいないプロジェクト
- 26 KITAQ キャンパスSDGs
- 27 生理の貧困プロジェクト
- 28 国際開発プロジェクト Thaksina
- 29 〔特集〕子ども食堂応援プロジェクト「まるっと食堂」
- 30 STEP3 2024地域活動発表会
- 32 STEP4 前期振り返り・後期スタートアップ研修
- 34 2024年度トピックス1 能登半島地震・豪雨災害での被災地支援
- 36 2024年度トピックス2 〈環境ESD演習Ⅱ〉フィールドスタディ
- 38 Leader's Voice
- 40 REGION×STUDENTS
- 42 421Lab.概要
- 43 「地域活動のタイプ」について
- 44 短期型の地域活動
- 45 短期型地域活動の紹介 私が活躍できる場所、を見つけました
- 46 2024年度地域共生教育センター活動記録
- 47 パブリシティリスト・メディア掲載
- 48 地域活動のお申し込みの流れ



PDCA サイクルとは

PDCAとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（分析）、Action（修正）の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。

事前研修



事前研修は、地域活動を行うにあたり必要な基本的知識や姿勢、スキルなどを習得することを目的に開催します。昨年度からの継続メンバーと今年度から参加する新規メンバーが、これまでの活動内容や昨年度の反省を共有し、プロジェクトの目的や今年度の目標を確認するために「スタートアップ研修」を行いました。これにより、昨年度までの反省や課題を踏まえて、今年度の活動をより良くすることにつながっています。

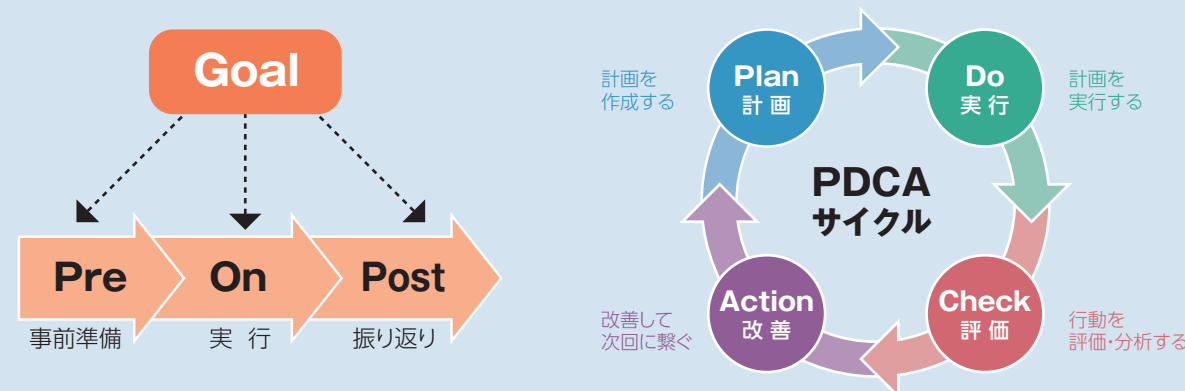
1 前期スタートアップ研修

日時 2024年5月18日(土)

前期スタートアップ研修は、プロジェクト支援グループ(P9参照)が421Lab.に所属するプロジェクトメンバーに向け、421Lab.の説明を行い、自身の所属するプロジェクトの目的・目標を設定するための研修です。今回は、ゴールを常に意識するG-POPというマネジメント手法をプロジェクト活動の基盤として取り入れました。また、研修内では質の高いプロジェクト活動になるよう、目的や目標を設定してもらいました。また冒頭のアイスブレイクとして行ったオンラインよりナンバーワンで、地域活動を共に行うプロジェクトメンバー同士の距離が縮まり、スムーズに今年度のプロジェクトの目的と目標決定をすることができました。



G-POPとは PDCAサイクルとの違い



2 前期リーダー交流会

日時 2024年7月13日(土)

前期リーダー交流会を開催しました。この交流会はリーダー同士の交流を深めることで他プロジェクトのことを知り、学んだ内容を所属プロジェクトに還元し、今後の活動に活かしてもらうことを目的として開催しました。

前期リーダー交流会の流れとしては、まず各プロジェクトメンバーと交流することのメリットを紹介し、事前アンケートでいただいた悩みについて私たちプロジェクト支援グループが解決策を提案するなどのフィードバックを行いました。そして8人ほどのグループ交流を2回行い、その後自由に他のプロジェクトメンバーと話すことができるフリー交流タイムを設けました。グループ交流では、4つのグループに分かれて、各プロジェクトのリーダーとメンバーがそれぞれ所属しているプロジェクトの特徴や悩みを共有しあい、悩みのあるプロジェクトは他のプロジェクトと改善策を練りました。最後にワークシートにまとめとして交流で得たことを記入してもらいました。

この企画によりプロジェクト間の活動内容を共有でき、コラボ企画についてもより具体的な話をしている様子も見られました。

〈当日プログラム〉

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 交流するメリット (5分) | 4 グループ交流2回目 (20分) |
| 2 回答のフィードバック (15分) | 5 フリー交流タイム (40分) |
| 3 グループ交流1回目 (20分) | 6 まとめ (5分) |



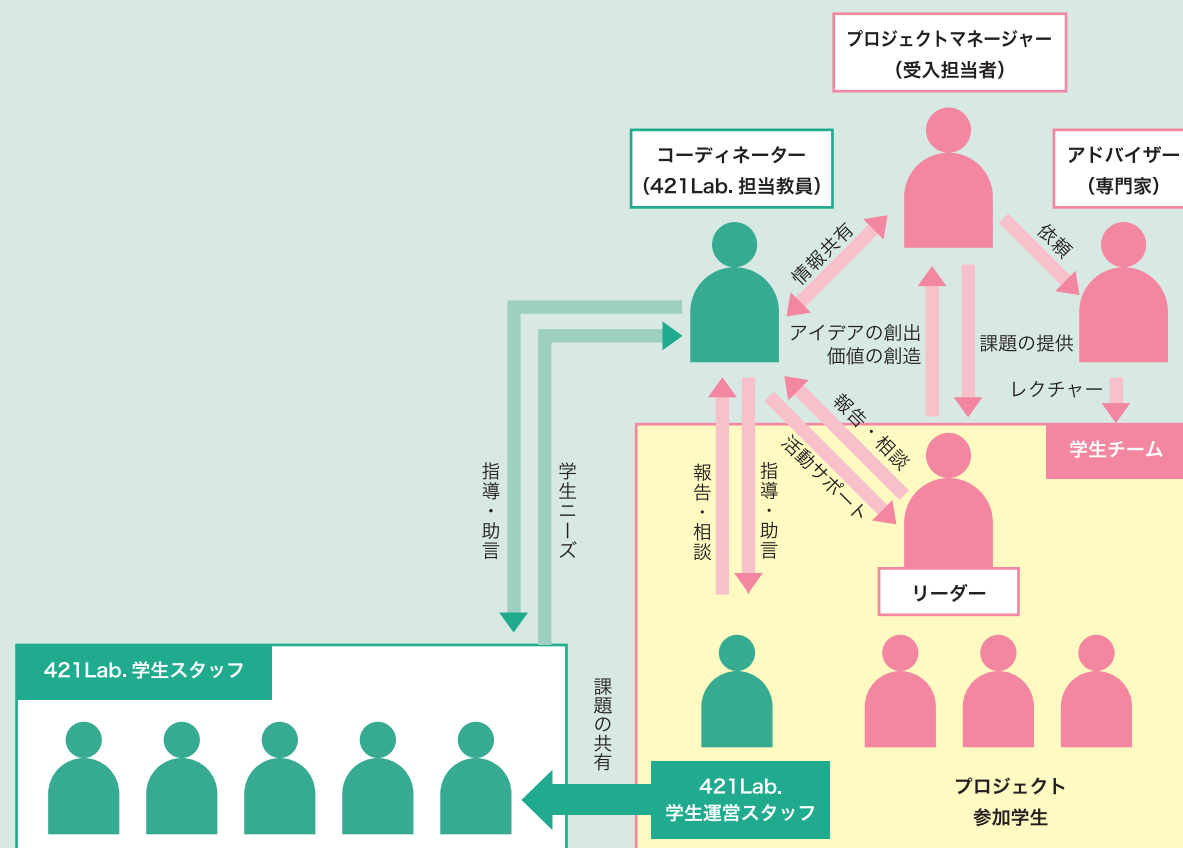


実践活動

実際の活動を通じて、下級生は上級生の考えや判断を吸収し、また経験したことを次なる後輩へと引継ぎます。421Lab. の強みは、このように連綿と継承されるPDCAが存在することです。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値（経験や勘に基づく知識）をここで獲得します。

1 実践活動の組織体制

プロジェクトごとに関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネーターとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。各プロジェクトでは学生リーダーを決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チーム作りのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



2 学びのためのきっかけを創りだす

421Lab. における活動は、すべて学生主体の課外活動です。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部・学群、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めていく際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

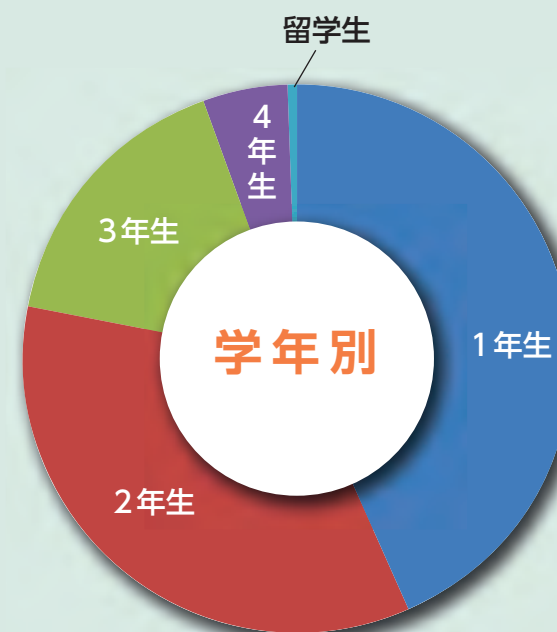
地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

〈 地域共生教育センター 基礎データ 〉

◆ 登録学生数

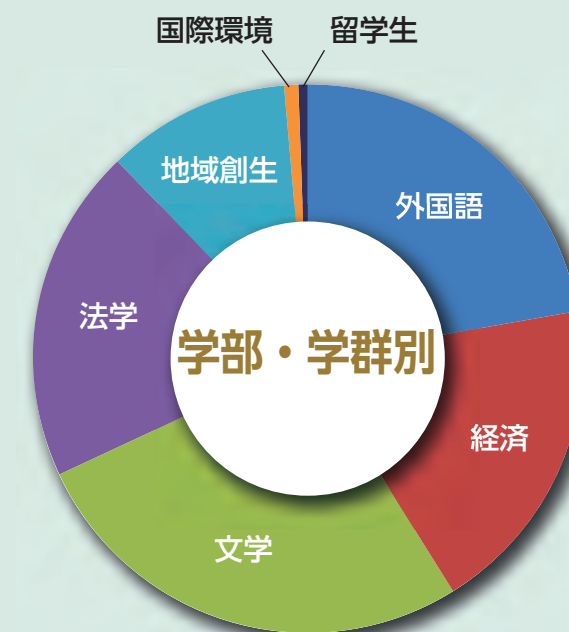
508名 (2025年2月現在)

◆ 活動学生の学年別内訳



学 年						統 計
1	2	3	4	留学生	大学院	
222	176	83	25	2	0	508

◆ 活動学生の学部・学群別内訳



学部・学群							統 計
外国語	経済	文学	法学	地域創生	国際環境	留学生	
115	95	137	100	54	5	2	508

421Lab. 学生運営スタッフ 地域と学生を繋ぐ「架け橋」



地域共生教育センター (421Lab.) は、課題を解決したいと考える地域・団体と、地域に貢献する活動、ボランティア活動に興味・関心のある学生を繋ぐ役割を担っています。その中で活動する421Lab. 学生運営スタッフは、地域や学内でのボランティア活動に取り組むプロジェクトや学生が円滑に活動できるようサポート活動を行い、地域貢献活動を学内外に発信することで、地域貢献活動への意識や魅力を高めています。

リーダー	地域創生学群 地域創生学類 2年 押川 佳蓮
プロジェクト人数	44名
活動開始時期	2010年4月～
活動頻度	● 全体会 (毎週水曜日昼休み) ● 各グループ活動 (週に1回)
連携・受入団体	北九州市内の行政機関、民間組織、団体等
主な活動場所	地域共生教育センター (421Lab.)
こんな人におすすめ	① ボランティア活動に興味がある人 ② 他学部の学生や地域の方々と交流したい人 ③ 企画や運営、サポート活動をしてみたい人
今年度の活動実績	● プロジェクト向けの研修 ● 学生運営スタッフ向けの研修 ● 地元小学校との交流 ● SDGs 修学旅行生の受入れ ● 入学生向けの説明会 ● オープンキャンパスでの相談会 ● 地域活動発表会の企画、運営 ● 421Lab. 公式 SNS の運用

活動する学生の声

421Lab. 学生運営スタッフは、プロジェクトの活動をサポートしたり、421Lab. 全体に関するイベントを運営したりと大変な部分もあります。しかし、その分企画力やコミュニケーション能力が身につく、自分自身の成長に繋がっていると感じます。



活動の内容と成果

今年度の活動内容とその成果は大きく2つあります。1つ目は昨年度よりもさらに学生運営スタッフの人数が増え、各活動を見直す機会ができたことです。人数が大幅に増えたことで、既存の活動の頻度を増やせたり、活動の質を高められたりと良い部分もありましたが、難しい部分もありました。試行錯誤しながら活動を見直し、44人全員の力を活かせる仕組みにすることができたと感じています。2つ目は、専門家や外部の方の力を多く借りたことです。昨年度まで学生運営スタッフが担っていたマナー講座、プロジェクト向けの研修等を専門の先生や職員に依頼することによって、正確で質の高い学びの機会をつくることができました。また、421Lab. が創設された経緯について学生運営スタッフが学ぶ時間を設け、活動の意欲向上に繋げることができたと感じています。昨年度までの良い部分を活かしつつ、新たな取り組みも始動することができ、充実した1年にすることができました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、421Lab. 学生運営スタッフの活動形態を見直したり、昨年度からの活動をどう上手く引き継ぐか考えたり、悩むことが多かった分成長もできた年になったと感じています。少しずつではありますが、「地域と学生を繋ぐ役割を担っている」という学生運営スタッフ1人1人の意識を高め、より各プロジェクトに寄り添う活動を行うことで、来年度も421Lab. 全体を発展させていきたいと考えています。

各支援グループ

大学・地域支援グループ

- リーダー：外国語学部 英米学科 2年 池田 さくら
- グループ人数：17名
- 活動実績
 - ・新入生に向けた相談会
 - ・大学近隣の小学校を対象とした大学訪問 (年3校)
 - ・SDGs 修学旅行の受入れ (年2校)
 - ・大学祭出店

小学生を対象とした大学訪問の感想

大学訪問の受け入れは、地元の小学生を対象に、大学に楽しいイメージを持ち将来の選択肢の1つとして北九大への進学を考えてもらいたいと考え、メンバー間で様々な工夫を凝らしながら大学について紹介しました。授業の仕組みについて説明するための履修登録ゲームや、小学生の疑問に答える座談会がその例です。キャンパスツアーでは「小学校との授業の違いを知ってもらいたい」という思いから、実際の授業に参加する体験もツアーに取り入れました。メンバーの人数が多かったこともあり、外部との打ち合わせ内容や各自のタスクの進捗確認や情報共有に課題が残ったことを踏まえ、イベント後のミーティングでは来年度に向けたイベントに使う資料のテンプレを作成することで、次に活かすよう心掛けました。企画から実施まですべての過程を自分たちで行うため大変なことは多かったですが、小学生から「楽しかった」の声をたくさんいただき私たちも笑顔になりました。

メンバーの人数が多かったこともあり、外部との打ち合わせ内容や各自のタスクの進捗確認や情報共有に課題が残ったことを踏まえ、イベント後のミーティングでは来年度に向けたイベントに使う資料のテンプレを作成することで、次に活かすよう心掛けました。企画から実施まですべての過程を自分たちで行うため大変なことは多かったですが、小学生から「楽しかった」の声をたくさんいただき私たちも笑顔になりました。



Lab. 支援グループ

- リーダー：地域創生学群 地域創生学類 2年 西江 茉莉
- グループ人数：12名
- 活動実績
 - ・421Lab. 公式noteにて「ラボログ」の更新
 - ・SNSを活用した広報
 - ・マナー講座の開催
 - ・北九州市民活動サポートセンター発行「広報誌キラキラ」への寄稿
 - ・北方まつり～ふれあいのタベ～への出店

マナー講座の感想

今年度も、学生運営スタッフに向けたマナー講座を実施しました。この講座は、名刺交換、身だしなみ・言葉遣い、メールマナーの3部に分けて行いました。企画を進めるにあたり、企画の考案から実行までを1年生が主体となって進めました。昨年度の反省を活かし、初回の名刺交換では、より専門的な知識を身につけるため、キャリアセンター職員を講師としてお招きしました。準備の段階では、スケジュール管理が行き届かず直前になって慌ててしまったという反省がありました。その後の講座では、初回の反省を活かし余裕を持つ

て資料を作成するなど、万全を期して当日を迎えられました。準備にゆとりが持てたため発表途中にゲーム性のあるワークを行う工夫ができた、本番では原稿を見ずに前を向いて進行ができたなどのたくさんの良い点があげられました。この企画で、Lab. 支援グループでのこれからの活動における大事な土台づくりができたと思います。来年度は議事録の作成の仕方など、学生運営スタッフが更に充実した活動に取り組めるような様々な分野の講座を行なっていきます。



プロジェクト支援グループ

- リーダー：外国語学部 英米学科 2年 深田 望未
- グループ人数：15名
- 活動実績
 - ・新入生勧誘のためのブース説明会の企画・運営
 - ・スタートアップ研修、後期スタートアップ研修の企画・運営
 - ・リーダー交流会の企画・運営 (2回)
 - ・PJサポートの企画・実施

各研修の感想

今年度の研修では、各プロジェクトの活動の基盤としてG-POPというマネジメントの考え方を取り入れました。5月に開催した前期スタートアップ研修では各プロジェクトにG-POPの概念を説明し、今年度の目標 (Goal) と今年度行う活動 (Preparation) を設定しました。この研修ではグループワークとしてプロジェクトごとに班を作るのではなく無作為な班を作ることでプロジェクトの垣根を越えて交流をすることができ、参加者からも良い評価を頂けました。しかし、事後アンケートで内容が難しく理解ができなかったとの声も

あり、その反省を活かし、10月に開催した前期振り返り・後期スタートアップ研修では外部講師の方をお呼びし、改めてG-POPについて理解を深め、実行 (On) と振り返り (Post) を行いました。研修前にプロジェクト支援メンバーが講師の方のミニ講座を受けることで、研修中のファシリテーターの役割を果たすことができました。来年度以降も新しいことに取り組みながらプロジェクトメンバーのサポートを行っています。



KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト 北九州から食を通じて被災地とつながる！



東日本大震災をはじめとした被災地の復興支援と風化防止を目的として活動を行っています。地域の祭りやイベントに参加して、岩手県釜石市産のイカと小倉発祥の焼うどんを掛け合わせた「絆焼うどん」を販売し、その一部を義援金として寄付や旅費等の活動資金に充当しています。さらに、震災を風化させず防災意識の向上のために、防災教室も開催しています。食を通じて人と地域、被災地とを繋げる活動を行っています。

リーダー	法学部 法律学科2年 吉田 心
プロジェクト人数	12名
活動開始時期	2011年4月～
活動頻度	● 毎週火曜日昼休みのミーティング ● 2ヶ月に1回ほどの出店活動 ● 地域や小学校での防災教室
連携・受入団体	お好み焼きいしん
主な活動場所	学内、お好み焼きいしん、各地のイベント
こんな人におすすめ	① 復興応援に興味がある人 ② 食に興味がある人 ③ 地域と関わりを求める人
今年度の活動実績	● 焼うどん講習会・まつりみなみみ出店・ 企救丘夏祭り出店・青嵐祭での出店 ● TOTOリモデルフェア出店・北九州市立高校防災 教室・藤木小学校での防災教室 ● SDGs 修学旅行の受入れ ● 釜石市と北九州市の関係性を学ぶ勉強会 ● 能登半島地震の被災地での支援活動

活動する学生の声

北九州市は比較的自然災害の少ない地域ですが、だからといって災害が起きないとは言いきれません。自分の身の安全を守るには、備えることが大切です。そのため、「焼うどん」の出店・販売や、防災教室を開催することで地域の方々に震災が身近なものであると認識してもらえよう、活動に励んでいます。



活動の内容と成果

コロナ禍で数年間中止していたお祭りが再開し、5回もの「絆焼うどん」の出店活動ができました。昨年は活動の多くを受け入れ先であるお好み焼きいしんに頼っていましたが、今年度は新メンバーがたくさん入ったこともあり、プロジェクトメンバーだけで出店を回せるようになりました。「絆焼うどん」は多くの方にお求め頂き、プロジェクトの認知度を上げることができたと思います。また、出店するごとに反省会を実施し、今回の良かった点と次回の出店に活かす点を皆で共有しました。また、地域の方々に震災の風化防止が伝わるよう努めました。小学生、高校生を対象にした防災教室も行い、災害の少ない北九州でも防災を意識しておく事の重要性を伝えてきました。子どもたちと一緒に防災について考える中で自らの防災に対する意識も高まり、大学生として周りの命も助けるにはどうしたらいいか考えるようになりました。私たちの活動を通じて、災害は身近なものだという事を認知してもらいたいと思っています。

今後の展望や次年度の目標など

「絆焼うどん」の出店に引き続き力を入れていきます。そして、その売り上げを活用し、使用しているイカの産地である釜石市とプロジェクト創設当時深く関わりのあった南三陸町を訪問したいです。被災地から遠く離れた北九州の方々に風化防止を訴えるには、まずメンバー自身が自らの目で被災地の現状を確かめ、活動に活かしていく事が一番の近道だと考えています。また、そこで得た知識を伝えていく事も私たちの使命だと考えます。



防犯・防災プロジェクト (MATE's) 防犯・防災意識向上の“きっかけ”づくり



「北九州市を学生の視点から安全で安心なまちにしたい」。そんな思いを胸に、私たちは防犯と防災という2つの分野で、さまざまな活動に取り組んでいます。

私たちの目標は、防犯・防災について考え、行動することのハードルを下げ、多くの方々が防犯・防災に関心を持ち、行動を起こせるようにすることです。地域の皆さまに防犯や防災の難しい部分を楽しく、わかりやすく伝える活動をしています。

リーダー	法学部 政策科学科2年 松田 啓牙
プロジェクト人数	32名
活動開始時期	2010年5月～
活動頻度	● 「ミーティング」 毎週火曜日 昼休み ● 「外部活動」 月4回程度
連携・受入団体	自衛隊福岡地方協力本部北九州出張所、福岡県人づくり・県民生活部生活安全課、福岡県警察本部生活安全部生活安全総務課、福岡県小倉南警察署生活安全課・少年課・交通課、北九州市市民文化スポーツ局安全・安心推進課、北九州市小倉北区役所総務企画課、認定NPO法人好きっちゃん北九州、NPO法人盗撮防犯ボランティアWc、一般社団法人九州防災パートナーズ、株式会社J.COM
主な活動場所	学内、北九州市の小学校・市民センター、ショッピングモールなど
こんな人におすすめ	① 防犯・防災に興味関心がある人 ② 子どもとかかわるのが好きな人 ③ コミュニケーション能力を高めたい人
今年度の活動実績	● 防犯啓発運動 ・自転車盗難、年金詐欺の注意喚起キャンペーン活動 ・地域安全マップ作り ・盗撮防止パトロール ● 防災啓発運動 ・あそぼうさいへの参加(市内各地) ・小倉北区防災訓練、門司区防災訓練への参加 ・横代Bousai チャレンジ ● その他の活動 ・市役所、小倉南区警察署、MATE'sの三者間での連携構築 ● 自衛隊との連携

活動する学生の声

防犯・防災の知識や学生同士・地域間の関わり大切さを学べます！地域の小学校や市民センターで「あそぼうさい」や防災マップの周知活動に参加する中で、普段関わることの出来ない地域の方々と交流することができました。新しい学びや交流があるため、やりがいがあり非常に充実したプロジェクトだと実感しています。



活動の内容と成果

まず防犯分野では、自転車盗難防止や性犯罪撲滅のキャンペーン活動、地域安全マップ作成、盗撮防止パトロールに取り組みました。また新たに、地域安全・暴力追放運動や防犯アカデミーに参加しました。また、学生防犯ボランティアサミットに参加し、他大学との意見交換を行うことで、更なる防犯への知識向上に繋がりました。次に防災分野では、遊びながら災害について学んでもらう『あそぼうさい』に参加しました。また、小倉北区防災訓練、横代Bousai チャレンジなどの企画に他大学や様々な団体と参加しました。特に『あそぼうさい』については認定NPO法人好きっちゃん北九州の方々と連携し、防災意識を持ってもらうための企画をしたり、ミニゲームづくりをしました。一昨年より、北九州市役所・小倉南警察署・MATE'sの三者間での連携関係を構築したことに加え、昨年から自衛隊との連携を実現しました。

今後の展望や次年度の目標など

次年度の目標は、幅広い層の方々に興味を持っていただくことです。活動内容が難しすぎると子どもは退屈に感じ、逆に簡単すぎると大人の関心が薄れることがあります。そのため、難しい内容でも子どもが直感的に楽しめる要素を取り入れ、子ども向けでも大人が興味を持てる工夫を凝らした活動を目指します。防犯や防災を「おもしろい」と感じてもらえるよう、知識を伝えるだけでなく魅力的な体験を提供し、一つひとつの活動の質を高めていきます。



421Lab.わくわくキッズプロジェクト 「遊び」と「学び」から笑顔と思い出を！



子どもたちが楽しく学びながら遊ぶことができる企画をメンバー全員で考え、関わったすべての人が楽しめるイベントを作ることが目的です。未就学児から小学校高学年の子どもたちまで、それぞれの年齢に合わせた遊びを考えます。市内の企業や団体と連携しながら、出張子ども大工への定期的な参加に加え、夏祭りやクリスマスといった季節のイベントを開催しています。

リーダー	経済学部 経営情報学科 2年 長岡 凜
プロジェクト人数	25名
活動開始時期	2021年4月～
活動頻度	● 毎週1回昼休みに定例ミーティング ● 月に1,2回不定期でイベントに参加
連携・受入団体	大英産業株式会社、コラボキャンパスネットワーク等
主な活動場所	学内、保育園や小学校、商業施設
こんな人におすすめ	① 子どもと関わることが好きな人 ② 企画力を養いたい人 ③ 学部・学科を越えた交友関係を築きたい人
今年度の活動実績	● 大英産業(株)と連携して月に1,2回程度北九州市内の各地で行われる子ども大工に参加。 ● コラボキャンパスネットワーク主催のミニプレーパークに参加し、夏祭りイベントを開催。また4号館で行われているプレイセンターハロハロへの参加。 ● 8月には塔野市民センターにてSDGsを意識した万華鏡作りを行った。

活動する学生の声

皆でイベントに向け工作や遊びを考え企画しています。その際に、安全かどうか・難易度は丁度良いかなど、子どもの年齢に合わせたものになるように心掛けています。企業の方々とのお関わりができて、可愛い子どもたちに癒されたりと、様々な経験ができます。

活動の内容と成果

【出張子ども大工】大英産業(株)が企画している「子ども大工」に毎月参加しています。

子ども大工では、建築端材を活用した椅子・写真立てを製作しています。未就学児から小学校高学年まで様々な年齢に合わせた関わり方に気を付けながら、子どもたちと一緒に楽しみ、環境問題について理解を深める機会を提供しています。

【夏祭りイベント】コラボキャンパスネットワーク、英語で遊ぶプロジェクトとのコラボ企画で、夏祭りイベントを開催しました。当日は色水かき氷や金魚うちわなど、複数のブースを出展しました。うちわづくりでは、子どもたちの手形をスタンプして金魚の絵を描くことで夏らしくも子どもの成長を残せるように工夫しました。

【SDGs工作】八幡西区の塔野市民センターの方にお声がけいただき、地域の子どものと万華鏡作りをしました。牛乳パックを用いてリサイクルについて考えられるように企画しています。外側は自由に飾りつけをしました。

今後の展望や次年度の目標など

来年度は今まで開催・参加したイベントを継続した上で、新しい活動にもチャレンジしていきたいと考えています。プロジェクトメンバーが増えた分、遊びのバリエーションを広げたり、より子どもに寄り添ったイベントを企画したりしていく予定です。また、プロジェクトの目標である「遊び」と「学び」を通して子どもたちに笑顔を与えるということを忘れずに、思い出に残る時間を作り上げていきたいです。



桜丘小学校学習支援プロジェクト ちいきの子どもたちといっしょにあそんでく？



私たちは貴船Y・Y児童クラブにおいて、小学生への居場所づくりと学習支援を行っています。月に2回、児童クラブを訪問し、子どもたちと遊んだり宿題のサポートをしたりしながら、居場所支援を目的とした活動を展開しています。

さらに、今年はクレカ若松で開催された「よみうりキッズフェスタ」にも参加し、知育ブースの企画・準備を行いました。このイベントを通じて、子どもたちに楽しい学びや遊びの機会を提供することができました。

リーダー	文学部 比較文化学科 2年 笠原 美伶
プロジェクト人数	5名
活動開始時期	2017年4月～
活動頻度	● 毎週月曜昼休みに定例ミーティング ● 月2回学童で子供と交流
連携・受入団体	北九州市立桜丘小学校、貴船Y・Y児童クラブ
主な活動場所	北九州市立桜丘小学校、貴船Y・Y児童クラブ
こんな人におすすめ	① 子どもと関わるのが好きな人 ② イベント企画をしたい人 ③ 全力で楽しめる人
今年度の活動実績	● 9月から貴船Y・Y児童クラブでの活動開始(月2回) ● 『よみうりキッズフェスタ』への参加(11月) ● 桜丘小学校でのAT(アシスタントティーチャー)活動の運用

活動する学生の声

普段の活動は貴船小学校内にある児童クラブに参加させていただき、時に勉強を教える先生として、また時に遊び相手や相談相手として、子どもたちと日々交流を深めています。子どもたちと遊ぶのも楽しいけど、メンバーがとっても仲良しなので和気あいあいとしています！

活動の内容と成果

今年度から活動拠点を、桜丘小学校から貴船Y・Y児童クラブに変更しました。貴船Y・Y児童クラブは、小学校内だけでなく貴船市民センターや近くの公園などでも活動しているため、一緒に様々な場所に参加させていただいています。市民センターでは、ペットボトルランタンと一緒に作ったり、市民の皆さんによる社交ダンス発表会を観覧したりしました。また、発表会後には社交ダンス体験の時間が設けられ、子どもたちと市民の方々と一緒に踊るなど、世代を超えた交流を楽しむことができました。

さらに「よみうりキッズフェスタ」にも参加し、子どもたちにお金の仕組みを学んでもらうための知育的な模擬店舗を運営しました。これまでの経験を活かしながら、楽しさと学びを両立させた取り組みを行いました。本イベントでは年齢や性格が異なる一人ひとりの子どもに合わせて教えることの難しさも感じ、言葉の選び方や教え方を工夫する必要がありました。この経験を通じて、私たち自身も多くの学びを得ることができました。

今後の展望や次年度の目標など

貴船Y・Y児童クラブでの活動を始めて半年が経つので、一緒に遊ぶだけでなく今後は私たちが企画したイベント等を実践したいと考えています。知育の観点を大事に、子どもが楽しく学べる環境づくりに取り組んでいきたいです。子どもたちから学ぶことはたくさんあります。教職課程を取っている方、子どもと関わりたい方など、「先生」として活動してみませんか？シフト制で月に一回土曜日の活動なので授業が忙しい方でも参加可能です！皆さんのご参加をお待ちしています！



『食』から学ぼうプロジェクト 食と健康の大切さを楽しく発信



私たちは、地域社会との繋がりを大切に、食と健康について自発的に学習し、その成果を地域住民の方々や同世代の学生に伝えています。一緒に活動をさせていただいているJAの女性部の方々と交流させて頂き、地元の食文化について学んでいます。また今年度からの活動として「北九州の郷土料理を学び、未来に残す。」というキャッチフレーズを掲げ、合馬地区の郷土料理をレシピ化しました。これから毎年レシピを増やし、「レシピ本作成」を目標に活動していきます。

リーダー	経済学部 経済学科3年 大島 静乃
プロジェクト人数	17名
活動開始時期	2016年4月～
活動頻度	● 毎週1回昼休みにミーティング(今年度は毎週金曜日) ● 月一回程度で企画やイベント
連携・受入団体	JA北九 合馬校区まちづくり協議会女性部
主な活動場所	北九州市立北方市民センター 調理室 北九州市立両谷市民センター 調理室 JA北九 大地の恵み西中店 調理室
こんな人におすすめ	① 料理が好きな人 ② 食べるのが好きな人 ③ コミュニケーション力を高めたい人
今年度の活動実績	● 郷土料理のレシピ作成 ● JAの女性部の方々と調理実習 ● 学祭での出店 ● SNSでの啓発活動

活動する学生の声

調理実習や学祭出店等を通してメンバー間の交流があり、イベントの際も協力して楽しく準備することができています。企画は少し大変だと感じる時もありますが、色々な立場や幅広い世代の人と関わることができるので、充実感と達成感も大きいです。



活動の内容と成果

【合馬地区の郷土料理をレシピ化】

今年度からの活動として、合馬地区の郷土料理レシピ化に向けて活動を行いました。地域の皆さんの中ではレシピにするまでもなかった日常に馴染んでいる郷土料理を私たちが学び、レシピ化に向けて検討を重ねてきました。初めての試みだったためうまくいかないこともありましたが、何度も女性部の方と打ち合わせを行い完成させることが出来ました。

【JAの女性部の方々と調理実習】

大好きな地域の方々と関わりながら、私たちが知らなかった料理や調理のポイントを沢山教えていただきました。

【学祭での出店】

JAの女性部の方々と作った「いちじくジャム」と豆乳入りの4種のスコーンを販売しました。メンバーみんなで楽しく作り、販売をし、完売することが出来ました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は交流を深めてきた地域の方々との活動を「レシピ化」として形にできた節目の1年であったと考えています。またスタートの年でもありました。来年度からも、一つずつ、郷土料理のレシピを増やして「レシピ本作成」という目標に向けて活動を行っていきたいと思います。そして、地域住民の方との関わりを更に深めて実りのある活動を行っていききたいです。



子ども食堂応援プロジェクト 子どもたちが安心できる居場所づくりを



子ども食堂応援プロジェクトは、北九州市内の子ども食堂で、子どもたちに勉強を教えたり一緒に遊んだりしています。みんなでご飯を食べることで孤食を防ぐとともに、子どもたちに楽しく、安心して過ごすことのできる第三の居場所づくりを目標としています。現在は4つの子ども食堂と連携して活動する他、2024年9月より、学生が運営する子ども食堂「まるっと食堂」を設立するなど、活動の幅を広げています。多方面にわたり、成長することができるプロジェクトです！

リーダー	法学部 法律学科2年 渡辺 胡桃 文学部 人間関係学科2年 志田 さくら 経済学部 経済学科2年 芝田 伊吹
プロジェクト人数	66名
活動開始時期	2016年9月～
活動頻度	● (日明) 毎月第2, 4週(木) 17時～ ● (城野) 毎月第3週(水) 17時～ ● (大里南) 毎月第1, 3週(水) 17時～ ● (若園) 毎月第2週(木) 16時～ ● (まるっと食堂) 毎月第1水曜日 17時～
連携・受入団体	日明元気もりもりハウス、城野子ども食堂ハッピー、絆キッチン こあらのおうち子ども食堂、特定非営利活動法人 Be with
主な活動場所	北九州市内の各市民センター(日明・城野・大里南・若園) LEARNING SPACE CANDL
こんな人におすすめ	① 子どもが好きで、楽しく活動したい人！ ② 意欲をもって活動に参加できる人！ ③ 主体的に子ども食堂を運営したい人！
今年度の活動実績	● “北九州市初”学生が運営する「まるっと食堂」を設立！ ● 子ども食堂での定例活動 ● 421Lab.の他プロジェクトとのコラボ企画を実施 ● 年中行事に合わせた子ども食堂での各種イベント(ハロウィンやクリスマス等) ● 福岡ひびき信用金庫との地域情報誌作成(取材及び原稿作成) ● SNSによる広報

活動する学生の声

元気ハツラツな子どもたちからエネルギーをもらうだけでなく、子どもへの接し方を学んだり、責任感を身に付けたりすることができました。また、活動をする中で、チーム内での話し合いを通じて考えを共有し、協力して物事をやり遂げることができると大きな達成感を感じます。



活動の内容と成果

今年度は、4つの既存の子ども食堂で活動するとともに、子どもたちが食堂でのイベントや遊びで普段できない体験や経験、学びを得たり、安心できたりする居場所の提供を目標として、運営から企画、実施まですべて学生が主体となって行う子ども食堂「まるっと食堂」を設立しました。まるっと食堂では、421Lab.に所属していることを活かして、生理の貧困PJにプライベートゾーンや性被害についてお話していただいたり、TFT PJとおにぎりアクションを行うことで、子どもたちに国際貢献の場を用意したりするなど、目標に沿った活動を行うことができました。設立にあたっては、助成金の申請や保険への加入、備品購入や年間スケジュールの作成などやるべきことが山積みでしたが、みんなで役割分担をしてやり遂げることができました。また、第一生命保険株式会社に子どもたちの利用料金を協賛していただいたり、(株)西日本新聞社に取り上げていただくことで子ども食堂の周知に力を入れたりするなど、様々な企業と協力して子どもたちの居場所づくりを行うことができたと感じています。

今後の展望や次年度の目標など

今後は、子どもたちがより一層楽しく、安心することができる第三の居場所作りを目指すとともに、毎月のミーティングなどを通して、学生同士のつながりを深める機会をつくっていききたいです。また、まるっと食堂の存在や理念が次世代にわたって引き継がれ、子どもたちや保護者から信頼のある、唯一無二の子ども食堂をつくることできるように、基盤を強化することに力を入れたいと考えています。



動物福祉プロジェクト 「動物福祉」について学び、広く発信していく！



私たちは動物福祉についてより多くの人に知ってもらい、考えてもらいたいという思いでこの活動をしています。北九州市では動物福祉・保護に関する取り組みが積極的に行われています。北九州市動物愛護センターへの訪問やNPO法人との協力、イベントへの参加等を通して動物福祉の現状や課題などを自分たちで多方面から学び、考え、それを発信することで、少しでも多くの人々が動物福祉に触れる機会ができるよう日々活動しています。

リーダー	文学部 比較文化学科2年 長友 美陽
プロジェクト人数	25名
活動開始時期	2015年11月～
活動頻度	● ミーティング (月1回程度)、公式X投稿 (毎週金曜日) ● ペットボトルキャップ回収BOX点検 (週2・3回) ● 北九州市動物愛護センター訪問 (月1回) ● 動物と触れ合える子ども食堂のお手伝い (毎月第1金曜日)
連携・受入団体	北九州市動物愛護センター、NPO法人ドックセラピージャパン、NPO法人アニマルホーム Ohana、NPO法人ALL OK
主な活動場所	各イベント会場、北九州市動物愛護センター、犬カフェかたのだ
こんな人におすすめ	① 動物が好きな人 ② 動物の福祉、保護について興味がある人 ③ 動物福祉の活動をされている団体に興味がある人
今年度の活動実績	● 北九州市動物愛護センターへの訪問 ● ペットボトルキャップ回収 (大学内)

活動の内容と成果

今年度、動物福祉プロジェクトは様々な団体の方々と関わり、「動物福祉」という言葉を広めるための活動をしてきました。動物愛護センターへの訪問、SNSの活用などはもちろん、それに加えてSDGsについて学ぶ中学生との交流、動物の防災・福祉に関する講演会への参加、動物と触れあえる子ども食堂でのお手伝いなど、メンバー自身が動物福祉についての知識を身に付けるための活動にも力を入れることができました。

活動の中で特に達成感を感じられたのは、NPO法人アニマルホーム Ohanaとの活動です。ペットボトルキャップを大学内で回収し、それを業者に換金し、TNR (避妊去勢手術) の活動に寄付したり、北九州市内の高校を訪問し、私たちの活動を広めたりすることができました。今年度は動物のために活動されている方々のお話を伺ったり、子どもたちに命の大切さや動物との触れあい方を伝えたりしたことで、私たちも考えを深め、自身の成長を実感できました。これらの活動は来年度以降も継続し、新たな活動にも取り組んでいきたいと考えています。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、以前から関わりのあった団体とより多くの活動をし、ペットボトルキャップ回収や子ども食堂のお手伝いといった新しいジャンルの活動にも参加でき、幅広く活動することができました。

来年度は外部の方から誘っていただいた活動だけでなく、自分たちでやりたいことを企画したり、新しい団体と連携したりと、主体的なプロジェクト活動を実践していきたいです。

活動する学生の声

動物福祉プロジェクトの活動では、動物福祉に関するイベントの開催や子ども食堂への訪問などを行いました。このような活動を通して人とのつながりを深く感じました。また、主催者側と連携を取った際に課題や反省点も見えたので、今後の活動に活かしたいです。

動物福祉プロジェクトに興味のある方は大歓迎です！



「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト 日常に文学を！



私たち「ブンガクの街北九州」発信プロジェクトは、「北九州市を『文学』の街としてブランディングする」というコンセプトのもと、北九州市に賑わいを創り、盛り上げるために活動しています。実は、北九州市にゆかりのある文豪や文学作品はたくさんあります。それらの魅力、文化資源を多くの人に広めたり、地域の人と『文学』を通して交流したりするために、たくさんの方たちのご協力のもと、日々活動しています。

リーダー	文学部 人間関係学科2年 友田 菜那美
プロジェクト人数	23名
活動開始時期	2015年11月～
活動頻度	● 週に1回1時間程度のミーティング ● 月に1回程度、週末にイベント等に参加
連携・受入団体	北九州市立文学館、北九州市立子ども図書館、北九州市役所
主な活動場所	学内、北九州市立文学館、小倉京町銀天街、北九州市立子ども図書館
こんな人におすすめ	① 北九州市の地域の人との交流や地域に根差した活動に興味がある人 ② イベントの企画、運営をやりたい人 ③ 文学作品や読書、北九州市にゆかりのある文学作品や文豪に興味がある人
今年度の活動実績	● 「とほほん市」への参加 ● 学内古本市開催 ● 北九州市文学館で小学生対象の読書感想文講座開催 ● 大里南市民センターで子ども食堂応援プロジェクトと合同でイベント開催 ● おすすめの本紹介の運用

活動の内容と成果

今年度は例年通り行ってきた企画を含め、今年度から新しく行った企画もできた充実した1年でした。特に、2024年8月に学童クラブみらいくと北九州市立文学館の2か所で開催した「読書感想文講座」は、昨年よりも開催日程や開催場所も増やし、多くの方に参加して頂きました。また、7・8月に大里市民センターで行った子ども食堂応援プロジェクトとのコラボイベントでは、読み聞かせと本に関するゲームを行いました。多く子どもたちが興味を持って参加してくれました。昨年度に引き続き、今年度も対面での企画はもちろん、SNSの運用も積極的に行いました。また、おすすめの本紹介を通して、大学生だけでなく幅広い世代の方と交流することができました。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は、今までのプロジェクトの基盤に沿った活動だけでなく、新しい挑戦もできた1年となりました。特に小学生を対象とした企画が多かったため、来年度は、社会人の世代や、中高生など今まで対象としてこなかった世代の方々に「文学」の魅力を発信していきたいです。今までの活動やつながりを大切にするのももちろんのこと、より私たちの活動を知ってもらえるようにSNS発信に力を入れていきたいと考えています。

活動する学生の声

私は小説や漫画が好きでこのプロジェクトに入りました。北九州に住んでいます。北九州にゆかりのある文豪や、文学作品があることについてあまり知りませんでした。たくさんの方にこの北九州の文学の魅力を知らえるように日々努力しています。取り組む中でやりがいを感じることも多く、楽しく活動できています！



TFT×KitaQ univ.プロジェクト
気軽に国際貢献！

私たちは「食」を通じた国際貢献を目的に活動しています。TFTとはTable For Twoの略称で「2人のための食卓」を意味し、先進国と開発途上国の食の不均衡を解消する活動の事です。主な活動内容は、北方キャンパスの学生食堂で開催される「TFTフェア」で、売り上げの一部を発展途上国の子どもたちの給食費として寄付するためのメニューを提供することです。そのほかにも学外のイベントに参加して、講演や自分たちが考案したメニューの販売を行っています。

リーダー	経済学部 経営情報学科3年 東家 光作
プロジェクト人数	25名
活動開始時期	2014年4月～
活動頻度	● 毎週木曜日の昼休みにメンバー全員でミーティングを行っています。 ● 食堂コラボや出店を予定しているときはミーティング以外の時間でも活動を行います。
連携・受入団体	北九州市立大学生協同組合、株式会社プロデュース、特定非営利活動法人Be With、宮城米マーケティング推進機構、ニコニコのり株式会社、Table For Two 運営事務局
主な活動場所	北九州市立大学北方キャンパス学生食堂
こんな人におすすめ	① 「食」を通じて国際貢献をしたい人 ② 「食」に関する企画を計画して、世界の食の不均衡について考えたい人 ③ SNSやポスター作成、ポップ作成などの広報活動をしてみたい人
今年度の活動実績	● 学生食堂で開催しているTFTフェアでのオリジナルメニューの提供 ● LEARNING SPACE CANDLEでのいどりフェスへの出店 ● おにぎりアクションにかかるSNSへの毎日投稿、動画投稿 ● 子ども食堂応援プロジェクトとのコラボ ● グループホームきらめき上原での「きらフェス」へ参加 ● 大学祭でのおにぎりの無料配布

活動する学生の声

私たちは学内の活動だけでなく、年に数回学外のイベントに参加し、様々な世代の方々にTFTの活動を広め、支援の輪を広げています。日本にいなから国際貢献が可能であることの周知活動を通して、間接的に食の不均衡の是正に携わることが出来ます。



活動の内容と成果

今年度は新たな取り組みを多く行いました。定例的な活動としてはTFTフェアを2度実施。また、フリーマーケットイベントのいどりフェスに出店し、売り上げの一部を寄付しました。TFTフェアでは今年度からオリジナルメニューの提供を行い、昨年度よりも多くの学生に購入してもらうことができました。また今年度も、SNSへおにぎりにまつわる投稿をすると写真1枚につき5食分の給食費が発展途上国の子どもたちへ寄付される取り組みである「おにぎりアクション」に参加し、Instagramへ約1か月間毎日投稿を行い合計33枚の写真を投稿しました。それ以外にも、小規模多機能ホームきらめき上原で行われた「きらフェス」への参加や学園祭のおにぎり等の配布を通して、「おにぎりアクション」への活動の協力を呼びかけました。

今年度はSNSの投稿にも力を入れ、イベントのたびにSNSへの動画投稿を行い、SNSのフォローをするにとどまってしまう人たちに対してのTFT活動訴求を図りました。以上の活動を通して、少しずつ支援の輪が広がっています。

今後の展望や次年度の目標など

今後の展望として、様々な方々に活動に協力してもらう機会を作りたいと考えています。今年度はメンバー以外の方の活動機会が年に数回しかなかったため、1年を通して多くの方が参加できるイベントを増やすことを予定しています。また、来年度の活動においては、すでに関わりのある方々だけでなく、多くのイベントに参加し、新しい方々とかかわる機会を増やしたいと考えています。こうして少しずつ活動の範囲を拡大していきます。

国際交流プロジェクト FIVA
文化の魅力を分かち合い、共生の花を咲かせよう

私たちは外国人の方との交流を通じ、「多文化共生社会」を実現することを目標として活動しています。主な活動は、北九州YMCA学院の留学生の方々や、北九州国際技術協力協会（KITA）の研修員との交流会の開催です。外国人の方々に日本の文化や言語の魅力を伝え、日本での生活をサポートすることが出来るよう日々取り組んでいます。実際に異文化を体験し、多文化共生についての理解を深められる機会を提供しています。

リーダー	外国語学部 国際関係学科2年 岡部 利花
プロジェクト人数	63名
活動開始時期	2016年4月～
活動頻度	● 毎週木曜日の定例ミーティング ● 年に6回程度の交流会
連携・受入団体	北九州YMCA学院、公益財団法人北九州国際技術協力協会（KITA）、株式会社Mahal.KitaQ
主な活動場所	学内、北九州YMCA学院、北九州市内及び近隣地域
こんな人におすすめ	① 異文化交流に興味がある人 ② 日本の魅力を海外の人に伝えたい人 ③ 日本を楽しめるイベントなどの企画や運営に興味がある人
今年度の活動実績	● YMCAの留学生と月一回程の交流会 ● SDGs 修学旅行の受入れ ● KITAの研修員との交流会 ● 株式会社Mahal.KitaQ主催のイベントへの参加

活動の内容と成果

今年度は昨年度に引き続き、定期的に外国人の方々との交流することが出来ました。年に6回ほどの北九州YMCA学院の留学生の方々との交流会では、街歩きやスポーツフェスタなどを行い、日本での生活を少しでも楽しんでもらえる企画を考え、留学生と真摯に向き合い多様な文化や価値観を理解し尊重することを意識して活動しました。留学生の方とは日本語で交流をするため、留学生が日本語を話しやすい空気をつくることや分かりやすい日本語を使うことを心がけました。更に、今年度は株式会社Mahal.KitaQ（通称マハキタ）が開催している国際交流イベントにも所属メンバーが参加し、積極的に交流を行いました。イベントではイングリッシュカフェで外国人の方や他大学の方と交流したり、小倉を散策しながらミッションを遂行したりしました。様々な年齢や国籍、他大学の人と出会う機会が増え、多文化共生について理解が深まった年になったと思います。

今後の展望や次年度の目標など

今年度は定期的に交流会やイベントを開催することができました。今後は、プロジェクト内での交流を増やしていきたいと考えています。昨年度は所属メンバー同士の交流が少なく、上手く連携が取れないこともあったため、プロジェクト内でもイベントや交流会を開催したいと思っています。それと同時に、所属メンバーの多さを活かした活動や他のプロジェクトとの交流など、新たな活動も積極的に行いたいと考えています。

活動する学生の声

外国人の方との交流を通じて、自分自身も日本について改めて知ることが出来る良い機会となりました。また、異文化だけでなく、外国人の方が自国の文化についても知らないことが多いのだと気づききっかけになりました。日々、異文化交流やコミュニケーションをとることの楽しさを実感しています。



地域クリーンアッププロジェクト アットホームな雰囲気で綺麗なまちをめざす



私たちは、楽しくアットホームな雰囲気で行うことを目的として、大学周辺でのゴミ拾い活動を行っています。ハロウィンやクリスマスの時期が近くなると仮装して清掃を行っており、季節に応じたイベントを実施しています。近年は、地域の高校生との清掃イベントを開催しており、多くの人と楽しく交流できる場となっています。ゴミ拾い活動を続けることで「ポイ捨てすることはカッコ悪いことだ」という気持ちを広めていくことを目指しています。

リーダー	法学部 法律学科 2年 寺西 生斗
プロジェクト人数	19名
活動開始時期	2015年4月～
活動頻度	毎月第2、第4水曜日 17時30分から約1時間程度
連携・受入団体	NPO法人greenbird
主な活動場所	北九州市立北方市民センター
こんな人におすすめ	① 他学部他学科や社会人、中高生など様々な人と関わりをもちたい人 ② ゴミ拾いに興味のある人 ③ 人と話すことが好きな人
今年度の活動実績	● 北方周辺での定例清掃 ● 小倉商業高校との清掃イベント ● SDGs 修学旅行の受入れ ● ハロウィン清掃 ● クリスマス清掃

活動する学生の声

活動では北九大学生をはじめとした大学生はもちろん、社会人、高校生などの参加も多く、コミュニケーションをとりながら楽しく清掃活動を行うことができます。また活動頻度も月2回と参加しやすいので、大学やサークル、アルバイトなどとの両立も可能です。



活動の内容と成果

今年度の主な活動として、定例清掃と、昨年度に引き続き小倉商業高校の生徒を対象とした清掃イベントを開催しました。定例清掃では毎回多くの方々に参加していただき盛り上がる活動となりました。10月に行ったハロウィン清掃は仮装して清掃することで普段の定例清掃とは異なり、活動後にはお菓子を配るなど、いつも以上に笑顔が増える活動となりました。また清掃イベントは30名の高校生に参加していただきました。活動に参加した高校生からは「ごみの多さに驚きました」「地域に貢献できて良かった」などの意見があり、環境問題について考えるきっかけをつくることができました。このイベントを通して、学年関係なく動くことができ、メンバーの成長につながりました。一方で、清掃イベントでは、大学生と高校生との交流の部分で課題を感じました。ただ掃除をするだけでなく、交流でも楽しんでもらえるような雰囲気づくりを定例清掃の時から実践していきたいと思っています。

今後の展望や次年度の目標など

今年度の反省として定例清掃の際に大学生同士で固まってしまう、多くの参加者と交流できていないことがありました。そのため、来年度は多くの人と交流できる雰囲気づくりに力を入れていきたいと思っています。また、清掃活動前に今日のテーマを設定するなど、交流を促進させるような取り組みを行っていきたくと思っています。また今年度、台風で行うことができなかった企画もあったため、来年度は今年度実施したイベント、企画に加えて新しい企画にも挑戦していきたいと思っています。



まち美化魅力向上プロジェクト Clear 清掃を通して、北九州市の魅力を向上させ発信する！



私たちは「清掃・地域交流・情報発信を通して、北九州市の魅力を向上させ発信する」を目的に活動しています。地域の方々と交流しながら清掃活動を行ったり、今年度から新たに始めた大学周辺の清掃活動を行ったりしています。今までの活動の良い部分を活かしつつ、私たちにできることは何か？すべきことは何か？と考え、活動の幅を広げている最中です！つまりくともありますが、目的・目標をしっかり持ちながら活動を頑張っています！

リーダー	地域創生学群 地域創生学類 2年 押川 佳蓮
プロジェクト人数	7名
活動開始時期	2020年4月～
活動頻度	● 毎週月曜日昼休みのミーティング ● 月に2回の学校周辺清掃活動 ● 月に1回の神嶽川清掃
連携・受入団体	株式会社ミクニ
主な活動場所	小倉南区北方(学校周辺)・神嶽川
こんな人におすすめ	① 身近な地域活動から始めたい人 ② 他学部、地域の方等様々な人と関わりたい人 ③ 自分たちで企画から実行までやってみたい人
今年度の活動実績	● 毎週月曜日昼休みのミーティング ● 新しい活動の発足(学校周辺の清掃) ● 月1回の神嶽川清掃

活動の内容と成果

今年度の主な活動と成果は3つあります。1つ目は、新たに大学周辺の清掃を始めたことです。本プロジェクト発足のきっかけとなった三萩野のバス停が当初よりもきれいになり、その活動に代わるものとして学校周辺の清掃を始めました。ポイ捨ての多い場所を選定し、清掃コースや清掃頻度をメンバーで決め、試行錯誤しながら活動を行うことができました。2つ目は、月に1回の神嶽川の清掃です。昨年度に引き続き、地域の方々と交流したり協力したりしながら清掃活動を行うことができました。3つ目は、毎週月曜日昼休みの定例ミーティングです。その月の活動日程を決めたり、新しい活動を始めるための話し合いを行ったりと、有意義な時間になることができたと感じます。また、ミーティングを通してメンバー間の交流も図ることができ、チームワークの醸成にもつながったと感じています。大きくプロジェクトが変わり始める年となりましたが、メンバー全員で協力しながら積極的に活動できました。

今後の展望や次年度の目標など

来年度の目標は本プロジェクトの活動を安定させることです。今年度から始動した大学周辺の清掃活動をもっとより良いものにし、メンバーの提案である他の新しい活動への挑戦や、既存の活動の見直し等をしっかり行いたいと考えています。また、SNSの運用にも今一度力を入れることで、本プロジェクトの活動を多くの人に知ってもらい、環境問題や清掃活動に興味を持つきっかけづくりにつなげていきたいと考えています。

活動する学生の声

今年度からの新しい活動として大学周辺の清掃活動を始めました。自分たちで清掃すべき場所を選定し、どのくらいの頻度でどんな清掃活動を行うか考え、実行しています。自分たちで企画・運営することは大変ですが、大きなやりがいを感じています。



青空学プロジェクト 環境問題の啓発とエコの意識を当たり前



私たちは、環境問題に対して学生の視点からアプローチを考え、実践して行く中で解決への糸口を探る活動を行っています。具体的には子どもたちにエコの意識を伝えることでエコが当たり前の社会になるようにイベントを試みたり、環境問題が起きている現場でフィールドワークを行い原因の調査や解決方法を探ったりしています。またイベントを行うだけでなく自分たちで環境学習を行うなど知識のインプットも行っています。

リーダー	経済学部 経済学科3年 井上 拓海
プロジェクト人数	6名
活動開始時期	2016年4月～
活動頻度	毎週月曜日昼休みミーティング
連携・受入団体	NPO法人里山を考える会
主な活動場所	学内・タカミヤ環境ミュージアム
こんな人におすすめ	① 環境問題に興味関心がある ② 地域に出て様々な人と交流しながら活動したい ③ 企画を一から発案・運営したい
今年度の活動実績	● 響灘ビオトープ、北九州市水環境館、タカミヤ環境ミュージアムでの学習活動 ● 岩屋海水浴場のゴミ拾い活動及び実地調査 ● エコライフステージにてブース出展 ● タカミヤ環境ミュージアムにて小学生に向けた環境学習イベントの実施

活動する学生の声

ゴミ拾いなどのボランティア活動と違いイベントを企画し運営していくので、環境問題解決への貢献だけでなく自身の成長にもつながりました。イベントでは子どもから社会人の方まで普段交流することのない方々とも交流することができ、学びに繋がりました。



活動の内容と成果

今年度の目標として「子どもたちにエコの意識を広める」掲げ活動してきました。

活動としては、前半はインプット中心、後半はアウトプット中心で活動を行いました。具体的に、インプットでは環境に関する資料・展示館に赴き学習したり海やビオトープに行き実地調査を行ったりしました。アウトプットでは子ども向けに環境問題の啓発とエコの意識を伝えるイベントを行いました。成果としては全てのイベントを通して述べ403名の集客ができたことやアンケートでも高い満足度を得ることができ、目標である子どもたちにエコの意識を広めることができたと考えています。また前年度も同じ目標で活動しており、今年度ではその際の反省点である企画力の充実さや自分たちの勉強不足の改善に取り組みしました。企画内容については余裕をもって準備し、勉強不足の部分はアウトプットを積極的に行うことで改善に取り組みしました。伝えることの難しさを実感した1年になりました。

今後の展望や次年度の目標など

青空学プロジェクトは、今年度をもって活動を休止することとなりました。創設以来、青空学プロジェクトでは多くの学生が学び、活動してきました。それも全てはこれまで支えて下さった関係者の皆様のおかげであると感じています。これまで青空学プロジェクトが行ってきた活動が少しでもよりよい明るい未来につながることを願っております。改めて、これまで支えて下さった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



平和の駅運動プロジェクト みらいへ繋げよう平和への想い



私たち平和の駅運動プロジェクトは、戦争や平和について、過去を風化させないため若者を中心に平和についてもっと興味を持ってもらいたいという想いで活動しています。具体的には、小学校での平和学習、子ども図書館でのイベントの開催、長崎や広島の同世代の人たちとの交流等、平和について考える機会の提供と自分たち自身が平和についてより深く考えるような活動を行っています。

リーダー	法学部 法律学科2年 奥浜 日向子
プロジェクト人数	6名
活動開始時期	2011年4月～
活動頻度	● 週1回のミーティング ● 不定期(月1回程度)で学外活動
連携・受入団体	北九州市平和のまちミュージアム、北九州平和資料室TICO PLACE、北九州市立西小倉小学校、北九州市立葛原小学校、長崎市立城山小学校、北九州市ピースフィールドクラブ
主な活動場所	北九州市、長崎市
こんな人におすすめ	① 年齢や大学を超えた人間関係を築きたい人 ② 子どもと楽しくかかわりたい人 ③ 企画を自ら考え、運営したい人
今年度の活動実績	● 北九州市立葛原小学校平和学習 ● 北九州市立西小倉小学校平和学習 ● 長崎市立城山小学校訪問 ● SDGs修学旅行の受入れ(6月・10月) ● 子ども図書館にて、平和展示・折鶴体験 ● 子ども食堂応援プロジェクトとのコラボ ● 沖縄戦についての講話会サポートスタッフ(TICO PLACE主催) ● 北九州市ピースフィールドクラブ参加(通年)

活動する学生の声

小学校で平和学習を行ったり、北九州市ピースフィールドクラブに参加したりすることで、世代を超えたくさんの方と出会いました。夏には2日間長崎へ行き、他県の同年代の方と意見交換をすることで、新しい学びを得ました。みなさんも私たちと一緒に、楽しく平和活動をしてみませんか？



活動の内容と成果

今年度は、昨年度の目標であった「より多くの関係先と繋がる」から発展させ、そのつながった関係先の方々と「深く関係性を築き、平和を広めていく」ということを目的に活動を行いました。まず、小学校での平和学習は、北九州・小倉の歴史、戦争の話だけでなく、児童が平和を身近に考えられるようにということで、普段使っているSNSを通して平和について考えてもらったりしました。小学生にとって日々の生活と平和が密接な関係にあることを感じてもらえるような平和学習を企画・実施できました。それにより、ミュージアムの方々と交流の機会が増え関係性が深まりました。また、これら以外にも北九州平和資料室TICO PLACE主催のイベントに3度スタッフとして参加させていただき、地域の方との交流の機会にも恵まれました。来年度からは私たちの活動をより多くの人に興味をもってもらうため、「みらいピースプロジェクト」に名称を変更し活動を続けていきます。

今後の展望や次年度の目標など

今後は北九州市ピースフィールドクラブとより密接に連携し、これまでになかった新たな企画を実施していきます。また、今後も小学校での平和学習なども継続して行い、様々な人が平和について考える機会を創り出していきます。そしてこのような活動の様子はSNSを通して、よりたくさんの方に発信していきます。私たちは今後も「楽しく」活動をしていきたいと思っています！



英語で遊ぼうプロジェクト 英語と異文化を子どもたちと学ぶ



このプロジェクトでは主に未就学児から小学生までの子どもたちを対象に英語や異文化に楽しみながら触れてもらえる機会づくりを目的として活動しています。子どもたちが英語と関わる事を楽しんでもらえるように、簡単な英語を使ったイベント・ゲームの企画、準備を行っています。提携する団体の方と夏祭りを開催したり、学童で季節のイベントを開催したりして子どもたちと英語を通して交流をしています。

リーダー	文学部 比較文化学科3年 佐藤 ひかり
プロジェクト人数	13名
活動開始時期	2021年4月～
活動頻度	● 毎週火曜日の休休みに15分程度ミーティング ● 学童でイベント開催
連携・受入団体	コラボキャンパスネットワーク、公益財団法人北九州YMCA・学童保育クラブ
主な活動場所	学内 湯川小学校学童
こんな人におすすめ	① 子どもと関わるのが好きな人 ② 英語・異文化に興味があり、それを使って活動したい人 ③ ものづくり（工作など）が好きな人
今年度の活動実績	● わくわくキッズプロジェクトとコラボで夏祭りの開催 ● 湯川小学校学童で夏休みイベントの開催 ● 湯川小学校学童でクリスマスイベントの開催 ● コラボ交流会参加

活動する学生の声

今年度は既存の活動に加え、新たに定期的な活動ができる場所を増やすことができ、幅広い年齢の子どもたちと関わる事ができました。学童でイベントを実施した際は子どもたちに楽しんでもらい、また来てほしいと言ってくれる子どもたちも多く、やりがいを感じながら活動することができました！



活動の内容と成果

これまで未就学児の子どもたちと主に交流してきましたが、今年度は新たに湯川小学校の学童で活動をするなど、小学生を対象としたイベントを実施することができました。また前年度と比べ、クリスマスイベント等の開催をすることができ、プロジェクトとしても新たな挑戦ができました。

既存の活動に加えて、新たな活動を企画、開催をすることができ、子どもたちの年齢層に合わせたゲーム、英語を使ったレクリエーションを通じて、子どもたちに英語に触れてもらう機会作りというプロジェクトの目的を果たすことができました。

今年度の反省としては、活動準備や企画立案時はプロジェクトメンバー全員で分担してできていましたが、本番に参加できるメンバーが少なかったことが挙げられます。しかし、イベントでは子どもたちに楽しんでもらうことができ、活動頻度も増えたため、昨年度よりも充実した活動ができたと思います。

今後の展望や次年度の目標など

活動回数自体は年々増加していますが、現在でも年間3回程度しか自主企画のイベントを開催できていません。メンバー内で大きなイベントの開催だけでなく、定期的で継続的な活動をしたいという思いがあるため、来年度は定期的に開催できるイベントや活動の企画をしたいと考えています。また、来年度も引き続き、英語をつかった季節事のイベント等を増やし、子どもたちや地域の方々ともっと関係を深めていきたいと考えています。



北九大もったいないプロジェクト 「もったいない」なら私たちにお任せください！



北九大もったいないプロジェクトでは、学内に潜む「もったいない」を見つけ出し、持続的に有効活用するための方法を考え実践する活動を行っています。食品ロスや節電、リサイクルなど私たちにとって身近な課題を取り上げることで、学生の環境問題に対する意識の向上を目指しています。個々の意見が活動に反映されやすく、また、何事にも挑戦できる環境であるため、メンバー全員が主体性・責任感を持って課題解決に取り組んでいます。

リーダー	法学部 法律学科2年 山口 遥加
プロジェクト人数	13名
活動開始時期	2022年4月～
活動頻度	● 週に1回全体ミーティング ● 不定期で企画やイベント実施
連携・受入団体	プレイセンター・ハロハロ、北九州市コンポストアドバイザーの会
主な活動場所	学内
こんな人におすすめ	① 学内の課題解決に携わりたい人 ② SDGsや環境問題に興味がある人 ③ 何か新しいことに挑戦したい人
今年度の活動実績	● 教室・廊下の消灯、節電の呼びかけ ● もったいない傘の管理・補充 ● 弁当容器回収 ● コンポストで堆肥づくり ● コンポストの堆肥を利用した畑づくり ● エコキッチン ● 子ども食堂応援プロジェクトとのコラボ企画の実施 ● 定例ミーティング

活動の内容と成果

プロジェクト内で、「教室・廊下の消灯」「放置傘の再利用」「弁当容器の回収」「コンポスト」の4つの活動班に分かれ、昨年度までの活動継続して行いました。メンバーそれぞれが主体性・積極性をもって活動に取り組みしました。

今年度の初めての取り組みとして、エコキッチンという活動を行いました。プロジェクトメンバーで料理を作り、野菜の皮など食べられない部分をコンポストに投入し、堆肥の作成に利用しました。また、大学内に畑を作り、コンポストで作った堆肥を活用するという取り組みを行いました。学内に畑を作るところから始め、野菜や果物を育て、収穫しました。

「もったいないPJ」の活動や、活動の成果を学生に知ってもらうために、校内放送、ポスター、SNSなどを活用した宣伝活動を行いました。さらに、電力消費量の変化や、弁当容器の回収数を可視化させるために、サイネージや看板を利用し、もったいないPJの認知度向上にも取り組みました。



今後の展望や次年度の目標など

学内に潜む「もったいない」をまだまだ見つけ出し、無くしていくことで、さらにエコな大学にしていきたいです。「北九大＝もったいないPJ」と言ってもらえるように、更なる認知度向上を目指し、学生に私たちの活動を知ってもらうよう、環境問題への関心が高まるような活動を行っていきたいです。また、学内だけに留まらず、学外での活動や他のプロジェクトとのコラボ企画を多く実施したいです。

活動する学生の声

今年度の活動では、既存の活動の継続に加え、新たな取り組みを始めることができました。自分たちがやりたいと思ったことを新しい活動として実施しやすいことです。また活動を通して、他学年・他学部の人と関わる機会が多いことが魅力に感じています。



KITAQ キャンパスSDG s

未来をつくるSDGs文化を北九大へ



私たちは学内のSDGs意識を向上させるための活動を行っています。SDGsの観点から、学内の課題を探し、教員や企業の方々に協力いただきながら解決に取り組んでいます。現在、株式会社タカギと提携し、北方キャンパス本館A-101の横にウォーターサーバーを設置しています。

リーダー	法学部 法律学科1年 林 優里
プロジェクト人数	8名
活動開始時期	2022年4月～
活動頻度	週に一回1時間程度
連携・受入団体	株式会社タカギ
主な活動場所	学内
こんな人におすすめ	① SDGsに興味がある人 ② 企業の方と連携して活動してみたい人 ③ 北九州市立大学をより良くしてみたいという人
今年度の活動実績	● ウォーターサーバーの運用 ● mymizuの登録 ● 株式会社タカギへの工場見学 ● KitaQRealへの投稿 ● みず色week ● ウォーターサーバーの周知活動

活動する学生の声

近年身近となっているSDGsに関連する課題に、学生が自らアクションを起こしながら解決を目指すことができます。学生が主体的にSDGsを学ぶことで、学内を「SDGsの観点から良くしよう」という意識ができ、やりがいを感じています。



活動の内容と成果

今年度は学内のSDGs文化の現状に向き合い、課題を発見した年となりました。定期的な活動としては、ウォーターサーバーの設置を行いました。それに伴い、ポスター作りなど学内での広報活動に力を入れました。また、みず色ウィークを実施し、ウォーターサーバーの利用量を増やすための呼びかけや、CRIMATE FRESHへの参加を行いました。さらに、ウォーターサーバー設置にご協力いただいている株式会社タカギの工場を見学させていただきました。普段は見る事ができないウォーターサーバーを見たり、企業の方々とSDGsについての意見交換をさせていただいたり、今後の課題や目標を明確にすることができました。他にもmymizuへ登録して、学外へウォーターサーバーを知っていただくきっかけを作りました。KitaQRealに掲載する記事を書くなどの広報活動も行いました。多くの方々にご協力いただいた活動を来年度にも活かしていこうと思います。

今後の展望や次年度の目標など

今後は、みず色PJの他にもSDGsに関する取り組みを行い、活動の幅を広げていきたいと考えています。特にSDGs文化の醸成を学内に広めることが目標であるため、学生にとってもやりがいのある企画を考案し実行していきたいと考えています。また、学内にとどまらず、学外でもSDGsのイベントを行ったり、地域の活動に参加したりすることで、KITAQキャンパスSDGsの活動や株式会社タカギとの取り組み内容を知っていただくきっかけを作りたいと考えています。



生理の貧困プロジェクト

生理を身近に、誰かのためになることを今始めよう



私たちのプロジェクトは、生理の貧困問題を身近なものにしてもらうための活動を行っています。まず、生理を取り巻く課題を把握し、その課題の解決に向けた活動内容を検討します。そして、生理やジェンダーを女性や当事者だけでなく、すべての人々に身近なものであると感じてもらうためのイベントを企画し実行します。また、生理やジェンダーに対するマイナスイメージを払拭することも目標の一つとしています。

リーダー	文学部 人間関係学科2年 武本 ひより 文学部 人間関係学科2年 吉本 優希
プロジェクト人数	11名
活動開始時期	2022年4月～
活動頻度	● 週に1回のミーティング ● 月に1回程度のイベント
連携・受入団体	—
主な活動場所	学内
こんな人におすすめ	① 生理やジェンダーに興味がある人 ② 生理用品が当たり前に見える環境を作りたい人 ③ イベントの企画や運営を行ってみたい人
今年度の活動実績	● 北方キャンパス内での北九大生理の日イベント開催 ● タンポン・布ナプキンの認知度アンケート ● 校内トイレにおける生理用品配布 ● 国際教育交流センターに生理用品配布と生理用品の英文説明用紙設置 ● 繰り返し利用できる生理用品についての図書館展示 ● 小学生への性教育(子ども食堂応援プロジェクトとの合同イベント) ● クリスマスドライブ実施(生理用品の回収と配布) ● 布ナプキンワークショップ

活動する学生の声

生理やジェンダーの問題について誰かと話す機会は少ないですが、イベントやSNSの更新といった活動を通して学内・学外の方々にも「生理の貧困」を周知することができていると感じています。特に、生理用品の配布は感謝や活動の継続を求めるお声をいただくことが多く、やりがいを感じています。



活動の内容と成果

生理の貧困プロジェクトでは、5月に「北九大生理の日」を開催し、前年度の活動内容の紹介とタンポンを身近に感じてもらうための説明を行い、本学にOITrを置くために学生からの賛同を集めました。加えて、「北九大生理の日」終了後に昨年度の「クリスマスドライブ」で配布しきれなかったナプキンを国際教育交流センターと本館1階女子トイレ、みんなのトイレにて配布しました。7月には図書館のギャラリーにて「繰り返し使える生理用品についての展示と図書館にある生理に関する書籍の紹介」を行い、より多くの人に生理について知ってもらえる機会を設けました。11月には子ども食堂応援プロジェクトとのコラボを実施し、小学生にプライベートゾーンと性被害について知ってもらい、自分たちと友人の身を守る方法を一緒に考えました。そして12月には布ナプキンワークショップを通じてその理解を深め、クリスマスドライブで生理用品の回収と配布を行いました。今年度の活動では昨年度に加え、複数の新しい取り組みに挑戦することができました。

今後の展望や次年度の目標など

今年はイベントの活動種類を展示、配布、発表といった形式で増やすことができ、それと同時に開催頻度も増やすことができました。しかし、それらのイベントの参加者が少ないことが改善点として挙げられます。より多くの人に興味をもってもらう、また参加しやすく感じる工夫をして、私たちの活動にもっと多くの人が関わってほしいと思っています。今後は、更なる生理の貧困問題についての周知と解決に向けて尽力していきます。



国際開発プロジェクトThaksina タクシン大学と連携して地域貢献につながる商品を開発



Thaksinaでは、タイ南部のパッタラン地域の経済開発とタイの学生との交流を目的とした活動を行っています。タイのタクシン大学の学生受け入れや、タクシン大学への訪問を通して、大豆ミートソーセージやフルーツ大福などの開発を行っています。また、双方の地域や文化について理解を深める交流も行っています。交流期間には、ソーセージの試作、試食会、北九州市及びパッタラン地域の観光、タイのローカルレストランや日本のファミリーレストランでの食事など楽しく活動しています！

リーダー	文学部 比較文化学科2年 笠原 美怜
プロジェクト人数	10名
活動開始時期	2024年2月～
活動頻度	● 毎週火曜日20時～オンラインミーティング ● イベントに合わせて商品を開発
連携・受入団体	タクシン大学パッタランキャンパス、株式会社ヤギシタ
主な活動場所	北九州市立大学北方キャンパス・ひびきのキャンパス
こんな人におすすめ	① 商品開発やマーケティングなどに興味がある人 ② タイが好きなお人 ③ 主体的に活動したい人
今年度の活動実績	● 毎週火曜日の定例ミーティング ● さくらサイエンスプログラムでのタクシン大学の学生・教員の受け入れ(2・8月) ● 1週間のタクシン大学訪問(9月) ● 大学祭出店(青嵐祭・ひびきの秋祭り)

活動する学生の声

学内での活動がメインですが、タイから学生が来たときやタイに行くときにみんなで協力して活動しています。(Rさん) タイの学生と交流しながら商品開発するのが楽しいです！(Mさん) 人数が少ないからこそ自分が好きなことができる環境があります！(Sさん)



活動の内容と成果

昨年度の2月にさくらサイエンスプログラムでタクシン大学の学生・教員受け入れを行いました。タイと日本の調味料を掛け合わせて新しいフレーバーの大豆ミートソーセージを企画しました。また、北九州市の環境学習や門司港、太宰府天満宮などへ観光にも行き親交を深めました。さらに今年度の8月にも受け入れを行い、ソーセージとフルーツ大福の試作も行いました。9月には私たちがタクシン大学を訪問し、ソーセージとフルーツ大福の試作、文化交流、観光などを行いました。フルーツ大福はタイで有名なマンゴスチンやマンゴー、ランブータンなどのフルーツとあんこを掛け合わせて作りしました。開発したソーセージと大福はタクシン大学内の野外マーケットで大試食会を行い、フィードバックをもらいました。文化交流ではけん玉やビンゴ大会などを企画し盛り上がりました。タイのローカル料理を食べたりパッタラン地域の観光地に連れて行ってもらったり、大きなキャンパス内を散策したりとタクシン大の生活を存分に味わうことができました。

今後の展望や次年度の目標など

今年はタクシン大学と3回、北九大としては計5回のソーセージ試作を行い、5種類のレシピが完成しました。次年度は株式会社ヤギシタと連携し、私たちが開発した大豆ミートソーセージを商品化する予定です。パッケージデザインや値段設定など、大豆ミートソーセージを買ってもらえるような工夫を考えていきます。また、タクシン大学は理系の大学で開発に強いので、次年度も連携して新しい商品を開発できたらと思っています。



大学生主体の子ども食堂「まるっと食堂」が、2024年9月に新たにオープンしました。子ども食堂応援プロジェクトに参加する10名の学生が中心となり、企画から運営までを担い、地域の子もたちやその家族を支援することを目指して活動しています。

ここでは、オープンに至るまでの取り組みや準備過程、そして食堂の具体的な開催内容について紹介します。大学生たちは、子ども食堂関係者や行政、企業などと連携を深めながら、子どもたちが安心して通える居場所づくりに尽力しました。また、食堂では食事提供にとどまらず、学習支援や交流イベントなど、多面的な活動を展開しています。

「まるっと食堂」は、地域の子もたちにとって栄養のある食事とともに心の温かさを提供し、大学生たちにとっても実践的な学びと成長の場となっています。

企画・構想期間(2024年2月～3月)

大学生が理想とする子ども食堂の実現に向けて、何度もミーティングを重ね、企画や年間スケジュール、役割について検討しました。



準備期間(2024年4月～8月)

子ども食堂運営者へのヒアリングや助成金申請、調理実習、広報等、準備を進めました。



運営スタート(2024年9月～)

9月4日(水)に開始し当日は約20人の子も達に来ていただきました！！原則毎月第一水曜日に活動を行っており、12月はケーキパーティも開催しました。





2024 地域活動発表会

2月9日に地域活動発表会を実施しました。地域活動発表会とは、421Lab.に所属する各プロジェクトが、1年間の活動内容や成果、今後の目標を発表しコンテスト形式で表彰を行うイベントです。本イベントは421Lab.学生運営スタッフのメンバーが主体となって、企画・準備から当日の運営まで行いました。

今年もポスターセッション部門・発表部門の2部門に分けて実施しました。当日は学生のみならず、地域の方々やお世話になっている企業の方々にお越しいただき、大盛況のうちに終えることができました。

優れた成果を認められ、表彰されたプロジェクトは次の通りです。

日時 2025年 2月9日(日) 12:00~17:00

会場 小倉南生涯学習センター

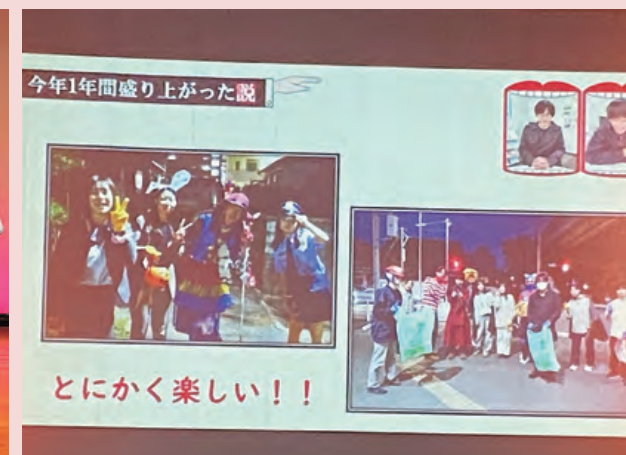
子ども食堂 応援プロジェクト

発表部門及びポスターセッション部門
最優秀賞



地域クリーンアッププロジェクト

発表部門 **優秀賞**



421Lab. 学生運営スタッフ

ポスターセッション部門
優秀賞



地域活動発表会当日の様子





前期振り返り・ 後期スタートアップ研修

421Lab.では前期での活動を単なる出来事や感動で終わらせ
ないよう、振り返りを行うことで後期の活動をより良いものに
しています。学生の成長やプロジェクト活動での反省を共有しあ
うことでプロジェクト間の学びにも繋がっています。また、学生
運営スタッフが企画から当日の進行まで担当することで、ファシ
リテーション能力を養うことができます。

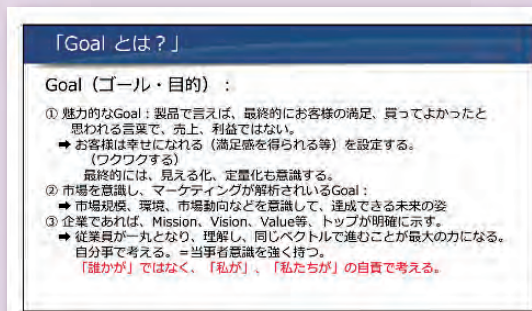
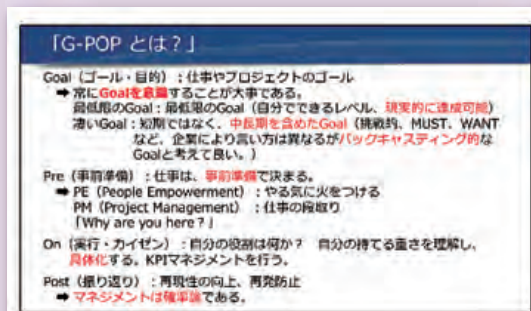
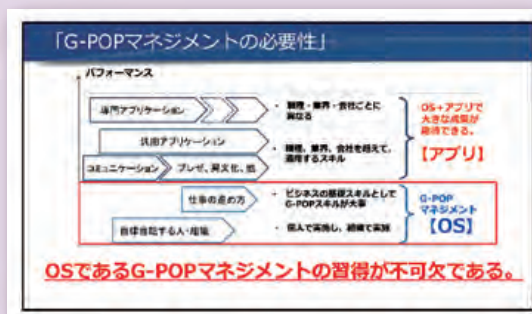
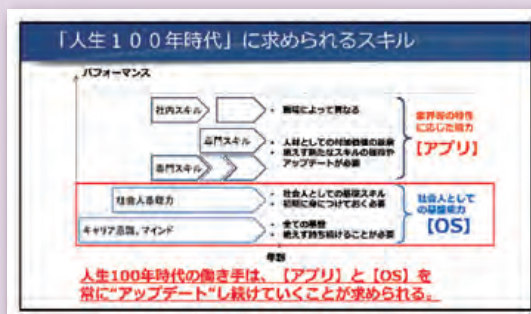
1

前期振り返り・後期スタートアップ研修

日時 2024年10月19日(土) 10:00～12:00

後期開始と同時に全プロジェクトを対象に「前期振り返り・後期スタートアップ研修」を開催しました。前期振り返り研修では、前期スタートアップ研修で設定したG-POPの目標(Goal)、今年度行うこと(Preparation)を再確認し、前期に実行したこと(On)を通して目標が達成されたかを各プロジェクトで振り返り(Post)を行いました。その後、振り返った内容を元に後期の目標と活動内容を設定しました。また、各プロジェクトの振り返り、後期の目標や活動内容を研修内で発表することで互いのプロジェクト活動への理解を深め、研修終了後にはコラボ企画について話し合う様子も見られました。

今回の研修では、前期スタートアップ研修の事後アンケートで得た「G-POPの考え方が難しく理解することが難しい」という反省をもとに外部講師の方をお招きしました。専門家からのフィードバックを受けて、各プロジェクトが後期に向けて再スタートを切ることができました。



2

後期リーダー交流会

日時 2024年12月7日(土) 10:00～12:00

後期になり、プロジェクトリーダーの引継ぎが行われる時期にあたることを踏まえ、プロジェクト支援グループでは、スムーズな引継ぎのためのサポート、新プロジェクトリーダーが抱えている不安の解消、新リーダー同士の交流を行うことを目的にリーダー交流会を企画しました。後期リーダー交流会では、各プロジェクトのリーダーが集まり、引き継ぎの説明と前期の活動を通して、リーダーとしての成功例や悩みなどについて話し合いました。プロジェクトの悩みに関しては、プロジェクトの垣根を越えてリーダー同士が共感していました。たくさんのプロジェクトと交流することにより、新しいアイデアが生まれるなどとても有意義な時間になりました。リーダー交流会を行うことによって、これからのプロジェクトの活動がより良いものになるきっかけとなり、リーダーとしての自覚を高めあうことができました。後期からは、プロジェクト内での引継ぎがあったため、新リーダーの活躍に期待です。



能登半島地震・豪雨災害での被災地支援

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、震度7（マグニチュード7.6）を記録し、500人弱の方が亡くなるなど甚大な被害が発生しました。地域共生教育センターに所属するKITAQ∞『絆』復興応援プロジェクトでは、発災当初に募金活動を行うなど学内でできる支援活動を行ってきました。その他にも、災害時緊急支援チームとして被災地派遣を4月と9月と11月の3回行いました。

現地での支援活動

01

日 時	4月26日（金）～29日（月）
参 加 者	学生4名、教職員2名
活動場所	石川県輪島市町野町周辺
宿泊場所	・奥能登ボランティアセンター（26日） ・輪島市ふるさと体験交流館（27日、28日）
活動内容	・被災家屋（旅館）の片づけ ・倒れたブロック塀の撤去 ・鯉のぼりの設置



参加した学生の声

能登半島は地形的にアプローチがしにくく、地震で道路が寸断され、孤立している地域がありました。そこには支援に来た私たちボランティアも介入することができず、やりきれない気持ちになりました。また、街の中心地から離れたところでは住宅の数が少ないため、被害が点在していて全容が見えにくいと感じました。更に、ご高齢の方も多く、家の片付けをするには人手が必要だと思うため、今後もボランティアなどの支援が重要だと感じました。

02

日 時	9月13日（金）～16日（月）
参 加 者	学生4名、教員1名
活動場所	・石川県輪島市金蔵周辺 ・石川県七尾市「和倉温泉観光協会」
宿泊場所	・奥能登ボランティアセンター
活動内容	・被災家屋（お寺）の片づけ ・観光協会でのインタビュー



参加した学生の声

発災から半年以上が経過して、北九州では全くとっていいほどニュースに流れる事もなくなり、自身の中では復旧・復興が進んでいるのではないかと感じていました。しかし、現実にはまだまだ手付かずの場所があったり、苦しみの渦中にいる人が多くいたりすることが分かりました。毎週のように通える距離にあるわけではないので、北九州にいらながらも支援できることを考え、今後は和倉温泉で製造されている「わくらムネ」を自分たちの風化防止の活動に紐づけて行っていきたいと思います。

03

日 時	11月1日（金）～4日（月）
参 加 者	学生9名、教員1名
活動場所	・石川県輪島市門前町深見地区 ・石川県輪島市門前町道下仮設住宅
宿泊場所	・奥能登ボランティアセンター
活動内容	・仮設住宅での被災者宅訪問 ・被災家屋（お寺）の片づけ



参加した学生の声

能登半島で最も痛感したのは、復興の難しさです。現地に行くまでは、政府が予算を組んで金銭的支援を行えば、比較的早く復興が進むだろうと楽観的に考えていました。しかし、地震から1年弱、大雨から数か月が経過した現在でも水道すら復旧していないという現状を目の当たりにし、復興には圧倒的に人手が不足していることを強く感じました。さらに、日本には災害地に人を派遣するシステムが十分に整備されていないのではないかと考えるようになりました。今回、私たちは九州から能登半島に赴きましたが、その交通費を考えると、近隣地域に住む人々を中心に支援者を集めることができれば、同じコストでより多くの人を動員することが可能です。そのため、地域内での相互協力を促進するシステムを構築する必要性を強く感じました。

2024年度 トピックス 2

<環境ESD演習Ⅱ> フィールドスタディ

今年度の副専攻「環境ESDプログラム」における特別科目「環境ESD演習」では、島原半島を訪れ、現地の自然環境、歴史、食文化などについて調査を行いました。

島原半島は海底火山の活動によって形成された自然豊かな地域であり、その地形的特性や歴史的背景は多様な魅力が詰まっています。演習では、現地の貴重な水資源、噴火災害の遺構、さらにはユネスコ世界文化遺産に登録された潜伏キリシタン関連遺産を視察しました。これにより、島原半島に暮らす人々がどのような歴史の中で生活を築いてきたのか、また噴火災害をはじめとする自然災害に対してどのような対策を講じてきたのかについて、2日間にわたり学びを深めました。

今回の調査・学習を通じて、地域の自然環境と文化、そして防災意識の重要性を実感するとともに、環境ESDの視点から持続可能な地域づくりへの理解を一層深めることができました。

スケジュール

本プログラムは **事前学習・現地学習・事後学習** の3段階で実施しました。

01 事前学習

毎週火曜日2限に自主勉強会を実施し、島原半島の自然や歴史等についてHPや文献、動画教材を活用して学びを深めました。

02 現地学習

2024年
12月7日（土）～
12月8日（日）

03 事後学習

環境 ESD 演習Ⅱ授業内にて成果発表、また高校生を対象とした島原半島に関する動画教材を作成しました。

現地での活動内容

（2024年12月7日（土）～12月8日（日））

12/7
土

- ① 千々石展望台に到着し視察および動画撮影。
- ② 有馬キリシタン記念館にてキリスト教伝来の歴史及び島原・天草一揆について学習。
- ③ 原城跡にて視察及び動画撮影を行った。
- ④ 浜の川湧水観光交流館および周辺地域にて地域の水資源に関する視察。
- ⑤ 島原一番街アーケードで湧水及び水資源に関する視察。



12/8
日

- ① 島原城及び武家屋敷にて視察。
- ② がまだすドームにて普賢岳噴火活動の実態等について学習。
- ③ 土石流被災家屋保存公園にて、被災家屋の視察。
- ④ 大野木場砂防みらい館にて、噴火災害対策工事の過程を学習。



参加学生のコメント

経済学部 経済学科 2年 音琴 綾人さん

私は島原半島とキリスト教との繋がりについて学びました。島原・天草一揆が島原半島にて、天草四郎が中心となって、キリシタンを含む領民が起こした一揆ということは知っていました。今回、有馬キリシタン遺産記念館や原城跡を訪れて、そもそもなぜキリスト教が島原半島に持ち込まれたのか、そしてどのように広がっていったのか、島原半島とキリスト教の繋がり歴史を学ぶことができました。島原半島とキリスト教の繋がり歴史には、島原のキリシタン大名の有馬晴信や天正遣欧少年使節によるキリシタン史の「光」と禁教令によって行われたキリシタン弾圧や松倉勝家が行った悪政による被害、島原・天草一揆などの「影」がありました。また、原城跡を訪れて、島原・天草一揆の際に破壊された痕跡を目にしたことで、1637年に天草四郎を領主としてキリシタン約3万人と幕府軍約12万人が実際に戦った島原・天草一揆が、実際にこの地で起こったということを実感するとともに、より理解を深めることができました。

今回の島原フィールドワークを通じて、歴史の点と点が繋がって線になったときの感動が忘れられなかったので、今後はジオパークに認知されている各地の文化・歴史的一面を学習していきたいです。



法学部 法律学科 2年 寺西 生斗さん

私は島原フィールドワークを通じて「今の生活は当たり前でないことそして自然の脅威」について学ぶことができました。私はこれまで火山や噴火について深くかかわることがなく、噴火による被害の様子も想像できませんでした。しかし今回、雲仙・普賢岳の噴火に関する施設を訪れたことでその歴史や当時の様子を学ぶことができました。普賢岳の噴火により発生した火砕流は溶岩の塊や火山灰などがなだれのように流れる現象で43名の尊い命を奪いましたが、それが約1万回発生したことに驚きました。またその後、少量の雨でも発生した土石流は多くの家屋に被害をもたらしました。しかし、人命に影響がなかったことは当時の住民の懸命な避難活動による結果であると感じました。この雲仙・普賢岳の噴火は平成初期に発生しており、遠い昔話ではない、これから発生する可能性もゼロではないことを実感しました。雲仙・普賢岳の噴火は自然の脅威が表れた出来事であったと学びました。

火山がもたらす恵みには温泉や湧水がありますが、裏には噴火による被害もあります。その自然の恵みを享受しつつ、自然と共存していかなければならないという気持ちが今回のフィールドワークを通じてより一層深まりました。

地域創生学群 地域創生学類 2年 黒肥地 亮太さん

私が島原フィールドワークで学んだことは、「人と火山の共生の面白さ」と「地域の特徴を知ればその場所がもっと好きになる」ことです。実際に島原へ行ってみると火山の恩恵を沢山受け取っており、それらを昔から様々な形で利用して共生をしていた人々の工夫にしている姿を学び印象は大きく変わりました。中でも、浜の川湧水という場所は深く印象に残っています。ここでは、湧き出る水を使って服や皿の洗い場として利用されています。ここの水は年中13度なので、「冬は暖かく、夏は冷たい」という地元の方の話に驚きました。そして、近くのお店ではこの水を料理に使っており、実際に食べてみて、とても美味しかったです。

島原独特の水が溜まりやすく、火山によってできた地層と江戸時代の噴火に伴う地震によって、この湧き水が出てきました。今回は「火山との共生の工夫」と「なぜ、このような土地が誕生したのか」という二つを知る事で、とても島原が好きになりました。私は今後、地域の中で活動する際に今回の島原フィールドワークの様に、地域の土地の成り立ちや人々がどのように生活してきたのかを知ることに力も注ぎたいです。

Leader's Voice

先輩インタビュー 番外編

悩み続けたリーダー像

421Lab. 学生運営スタッフ 地域創生学群 地域創生学類 2年 押川 佳蓮 さん

地域創生学群ということもあり、学生運営スタッフとしての関わりは任意の活動ではなく、実習活動として関わってきました。正直、当初から自身がリーダーをすると覚悟していたわけではなく、周りの同級生や他学部生たちとの関わりの中で自ずと決まっていたという感じです。それでも、自分がやると決めたからには、これまで先輩たちから受け継いできたやり方をそのままに実践するだけではなく、新しいことにもチャレンジしたいと思っていました。そこで、以前から課題だと感じていた理念の共有に関して、421Lab. 設立当時の先生をお呼びし、学生運営スタッフとしての活動目的や存在意義を再確認する機会を設けました。設立から時間が経過することで、活動目的や存在意義が薄れてしまいがちですが、こうした機会を設けることで、運営スタッフ同士のモチベーションの維持にも繋がったと思います。一方で私自身のリーダーとしての立ち振る舞いは、先輩たちの世代と比較してしまったり、全体の意見をうまくまとめられなかったりと悩みの連続でした。率先して引っ張っていくリーダーもいれば、褒めて伸ばすリーダーもいます。自身の理想としては、「失敗しても気兼ねなくチャレンジができて、リーダーも含めて、みんなが同じ目線で活動できる。」そんな運営スタッフになればと思い活動を続けてきました。まだまだ自身が求めた形になっているとは言えませんが、それでもリーダーをやってよかったなと思っています。



0⇒1へ 新しい活動を興していく難しさややりがい

『食』から学ぼうプロジェクト 経済学部 経済学科 3年 大島 静乃 さん

昔から食べることが大好きで、特に大学生になってからは一人暮らしということもあり「食」を大切に考えていました。その事とは別に大学に入学して何か新しい事にチャレンジしたいとも思っていました。そうした中で出会ったのが「食から学ぼうプロジェクト」でした。活動を続けていく中で、ある時、先輩から「リーダーやってみない？」と言われ、高校時代に文化祭等でのリーダー経験があったことや、同級生のメンバーが少ない中で誰かがやるしかないと考えていたので、引き受けました。しかし、見るとやるとでは大違いで、連携先との調整、新しい活動の企画、新メンバーの勧誘など本当に大変でした。一方で、忙しい中でも行政との連携事業を2回も実施するなど、自分たちが対象としている小学生世代に「食」の大切さを伝える活動ができました。一番印象に残っているのは、薄れゆく地域の食文化を未来に残すためにレシピ本づくりを行ったことです。自分たちの世代で一から企画して実践できたことです。合馬地域のお母さんたちに習い、一緒に作り、それを学園祭でも出店しました。一から自分たちで企画を練り、実践を経て、成果をまとめることができたこと、さらには悪戦苦闘しながらもリーダーとしてやり遂げられたことは自信に繋がっています。今後は、ここでの経験を活かして、食品関連の仕事に就きたいと考えています。



各プロジェクトでリーダーとして頑張っている学生にインタビューしました。どのような想いで活動に取り組んでいるのか、ぜひ知ってほしいと思います。

温故知新 先輩からのバトンを次代へとバトンパス

地域クリーンアッププロジェクト 地域創生学群 地域創生学類 3年 長濱 麟太郎 さん

地域クリーンアッププロジェクトの活動に初めて参加をしたのは、高校生の時でした。大学への入学が既に決まっていたこともあり、大学生になる前から何か新しいことにチャレンジしたいと考え、思い切って参加をしてみました。今現在も脈々と受け継がれているのですが、仲間内だけの清掃活動とは異なり、我々がやっている活動は、毎回大学生以外にも高校生や企業の方など一般の人も多く参加をします。自身が初めて参加をした時もそうでしたが、誰が来ても「Welcome」という居心地のよさをプロジェクトとしては大切にしています。自身が高校生の時に参加した時も、当時のリーダーが醸し出す雰囲気や周りの先輩たちの関わり方がとても居心地よく感じました。そして、自分がリーダーになった時には、そうした雰囲気作りを大切にしたいと考えようになっていました。どうすれば、みんなが楽しく活動を継続できるのか。清掃時以外の場での学生同士の交流の機会なども設けました。また、リーダーだけが頑張るというよりは、そうした居心地がいい雰囲気の中で、周りが協力して動いたり、チャレンジしたりできる環境を整えるように心掛けました。そうした中で、次の世代からリーダーをやってもいいといった後輩が出てきたのは嬉しい限りです。先輩たちから受け継いだバトンを次の世代に託すことができました。今後は、ここでの経験を活かして、人や場所が醸し出す「雰囲気」を突き詰めていきたいと思っています。



個々人が主体的に関わる中で、1つのモノを創り上げる

防犯・防災プロジェクト 文学部 比較文化学科 3年 福島 菜緒 さん

大学に入学したら何か新しい事にチャレンジしてみたいと思っていたところ、学籍番号が前後だった友人に誘われて、これまで全くと言っていいほど意識したことがなかった「防犯・防災」の分野に関わることになりました。活動を継続していく中で、自分たちの世代の中でリーダーを決めるとなった際に、この活動以外にもリーダー経験があったこともあり、自ら進んでリーダーに立候補しました。しかしながら、引き継いだ当初は苦労の連続でした。イベントの企画を考えたり、行政やNPOからの依頼が立て込んだりする中で、全部自分がやらなければいけないと感じていました。また、他のメンバーへの遠慮もあって、作業を任せるといったことができませんでした。そうした状況下で、いざイベント本番を迎えた時に、自分だけが全ての流れを理解しており、当日活動するメンバーは、イメージが湧かず上手く動けないといったことがありました。作業を分担することは、そこに自主的な関りが生まれるだけでなく、イベントの目的を理解したり、イベント全体の流れをイメージできたりすることにも繋がることを実感しました。また、印象に残っている活動として能登半島地震・豪雨災害の被災地支援に行ったことが挙げられます。これまで、北九州市内を中心に防災をテーマに子どもから高齢者まで色々な人に向けて活動を行ってきましたが、被災現場を目の当たりにして、改めて災害や防災について学ぶ事の大切さを痛感すると同時に自分たちのやっていることの意義を再確認できました。こうした経験を踏まえて、将来は自分で一から企画したことに、色々な人が関わることで、それが形になっていくような仕事に就きたいと考えています。



REGION × STUDENTS

地域 × 学生を掛け合わせたら何が生まれるか。今回は、子ども食堂応援プロジェクトの活動に、日々協力していただいている福岡ひびき信用金庫の赤木さんに、子ども食堂応援プロジェクトの活動に対する想いや学生へのアドバイス等をお話しして頂きました。

《インタビュー》
文学部 比較文化学科 1 年
久富 恵那



A ひびしん
赤木 貴文さん

同席者

外国語学部 国際関係学科 2 年

森田 すみれ

地域創生学群 地域創生学類 1 年

國安 美菜

執筆者

地域創生学群 地域創生学類 1 年

西村 陽菜

対談企業：福岡ひびき信用金庫

対 談 日：2025 年 1 月 15 日（水）

時 間：1 時間 15 分

場 所：北九州市立大学 北方キャンパス



Q ① 「子ども食堂応援プロジェクト」と関わるようになった経緯を教えてください。

A

地域の金融機関である福岡ひびき信用金庫のお客様から「北九大の学生さんとなにか接点を作れませんか？」という意見がありました。

そこで、大学生が企業の経営課題に対する解決策を提案するプレゼン大会を毎年開催するようになりました。その中で、学生が地域の企業、人々を新たな視点で再発見する機会を提供したいという思いから、421Lab. とのご縁が生まれました。

そこで421Lab.の地域活動を福岡ひびき信用金庫グループで応援することを掲げた連携協定を、福岡ひびき信用金庫とひびしんキャピタル株式会社、421Lab.の3社で締結しました。私どもとしては421Lab.全体の活動を応援しており、地域の活性や人材育成に関することなどが協定の目的となっています。

子ども食堂応援プロジェクトの皆さんとは、大学生の意見を取り入れた地域情報誌を新たに作成したいと考える弊社と、活動資金や発信力の強化を必要としていたプロジェクト側の想いが合致したことをきっかけに、連携して活動を進めるようになりました。

Q ② 「子ども食堂応援プロジェクト」の活動は、どのような印象ですか？

A

大学生が主体となってプロジェクトを運営されているため、非常に活発に活動されていると感じます。また、今回新たに子ども食堂を立ち上げるなど、挑戦を続けている姿勢にも感銘を受けます。

一方で、プロジェクトの継続性という観点では、これからの取り組みが非常に重要になると感じています。現在活躍されている方々が卒業した後も、活動を継続させていく必要があり、次の世代へとつなげるためにどのようなアクションが必要かを考えることが、今後の大きな課題の一つと言えます。この課題を乗り越えることで、プロジェクトがまた新たな形へと進化していくはずで、その過程を、心から応援しています。

Q ③ 421Lab.の活動を通して、プロジェクトに所属する学生に身に着けてほしいことはありますか？

A

1 番身につけてほしいことは、物事を様々な見方で捉えられる能力です。これは学生さんに限ったことではなく、大人でもよくありますが、自分たちの取り組みは良いことだと思い込むと視野が狭くなります。そのため、地域を再発見する取り組みを通じて、この街の魅力を改めて見つけたり、新たな視点に気づいたりする力を養ってほしいと考えています。また、SNS やインターネットの情報だけに頼るのではなく、実際に現場に足を運び、自分の目で確かめることの重要性を意識してほしいです。



Q ④ 大学生と関わるメリットは何ですか？

A

学生さんとの活動を通じて、さまざまなアイデアや新たな発想・視点が生まれることが大きな魅力です。地域をどのように盛り上げ、活性化していくかについて、大学生の皆さんのアイデアや価値観が刺激となり、それが地域の活性化につながると、結果として企業の成長にも寄与します。また、長期的な視点では、卒業後に地域に戻ってくる人が増えたり、関係人口の拡大が期待できたりする点も大きなメリットです。



Q ⑤ 今後の展望はありますか？

A

学生の皆さんには地域情報誌の作成に協力いただいておりますが、今後も一緒にこの活動を継続していきたいです。この取り組みを通じて、お互いが積極的・自主的に活動し合う関係を構築し、サポートしていきたいです。



Q ⑥ 学生に向けて一言お願いします。

A

自由に動ける時間がいっぱいあるので、少しでも興味があることは、恐れずにチャレンジしてみてください。実際に行動することで、自分なりの発見があると思います。「もし、失敗しても失敗した時に考える」という気持ちを持つと一生の宝になると思います。今の時代は、皆さんがチャレンジしようと思ったら応援してくれる社会です。ぜひ、挑戦することを大切にしてください。

また、北九州市のことも好きになってくれたら嬉しいです。



「地域につながる 自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年4月に北九州市立大学に誕生した『421Lab.（地域共生教育センター）』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。このような活動に取り組むことで、学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までになかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab. にはセンターの運営を支えている「学生運営ス

タッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートすることで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみたい」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第一歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、イベントでの出展 PR などをを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。



「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成（学生への教育効果）などの観点から以下の 3 つのタイプに分けて、学生への周知や活動の広報などを行っています。また、これらの地域と

連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

プロジェクト型

地域社会への貢献を目的とした長期的なプロジェクトでありチームを組んだ複数の学生が地域団体と協力して活動を行う。地域での活動を通じ学生自身も学びと成長を得られるよう、センターが教育的な指導・サポートを行う。

- 421Lab. 学生運営スタッフ
- 防犯・防災プロジェクト (MATE's)
- 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 子ども食堂応援プロジェクト
- 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 国際交流プロジェクト FIVA
- まち美化魅力向上プロジェクト Clear
- 平和の駅運動プロジェクト
- 北九大もったいないプロジェクト
- 生理の貧困プロジェクト
- 国際開発プロジェクト Thaksina

- KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
- 421Lab. わくわくキッズプロジェクト
- 『食』から学ぼうプロジェクト
- 動物福祉プロジェクト
- TFT×KitaQ Univ. プロジェクト
- 地域クリーンアッププロジェクト
- 青空学プロジェクト
- 421Lab. 英語で遊ぼうプロジェクト
- KITAQ キャンパス SDGs
- 北九州文化観光プロジェクト

企画連携型地域活動

地域の様々な主体（行政・企業・NPO 等）とともに、特定のテーマに基づく企画を立て、その実現を目指して活動する。学生運営スタッフとの連携が多く主に年内での活動となる。

短期型地域活動

1 日～数日単位で行われる地域貢献（ボランティア）活動。地域からの要請を受けたセンターがメーリングリストや学内ポスターなどを通じて学生に情報を提供するとともに活動実施日まで、受け入れ先との調整を行う。

●短期型地域活動の一覧は、P44 参照。

2024.4.26 ~ 29	能登災害支援派遣
2024.11.1 ~ 4	能登災害支援派遣
2023.10.1	防犯・防災プロジェクト MATE's 活動安全部長連盟表彰
2023.2.8	令和4年度福岡県青少年健全育成対策推進本部長顕彰
2023.1.18	防犯・防災プロジェクト MATE's 防犯活動に関する感謝状
2022.8.20	福岡県環境教育学会第25回年会 発表賞
2022.1.22	『食』から学ぼうプロジェクト ふくおか地域づくり活動賞
2021.12.23	防犯・防災プロジェクト MATE's 安全・安心なまちづくりへの活動に対する感謝状 北九州市長より
2021.7.30	防犯・防災プロジェクト MATE's ニセ電話詐欺の被害防止活動（のぼり旗作成）に対する感謝状 小倉南警察署より
2021.3.1	平和の駅運動プロジェクト 2020年度北九州SOS未来アワードSOS賞 北九州市、北九州ESD協議会より
2020.10.27	東日本大震災関連プロジェクト 東日本大震災災害支援への感謝状 宮城県南三陸町長より
2020.7.5	防犯・防災プロジェクト MATE's 北九州市青少年ボランティア表彰（優秀賞） 北九州市子ども家庭局青少年課より
2020.3.10	『食』から学ぼうプロジェクト 農林水産省食育活動表彰 ボランティア部門（大学等）消費・安全局長賞
2020.1.16	『食』から学ぼうプロジェクト 北九州市健康づくり活動表彰 市長賞（地域団体部門）受賞
2018.12.25	地域貢献活動部門賞を受賞
2018.3	緊急時災害支援チーム 「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
2017.7.15 ~ 17	九州北部豪雨支援第一次派遣
2017.8.5 ~ 8	九州北部豪雨支援第二次派遣
2017.1.1	平和の駅運動「プロジェクト」 ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2016.10.21	防犯・防災プロジェクト 北九州市長より安全・安心に関する活動団体表彰
2016.11.27	ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2016.10.8 ~ 10	平成28年度公立大学全国学生大会（JINKTODOS）運営
2016.5.28 ~ 6.26	熊本地震災害支援第二次派遣（計5回実施）
2016.5.2 ~ 5	熊本地震災害支援第一次派遣
2016.4.14	熊本地震が発生
2016.4.1	緊急時災害支援チーム発足
2016.7.14	熊本地震派遣学生報告会
2016.10.1	防犯・防災プロジェクト 福岡県防犯協会連合会長と福岡県県警生活安全部長より表彰
2016.2.10	第三回地域活動発表会（大学教育再生加速プログラムフォーラム）
2016.1.23	防犯・防災プロジェクト 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
2014.7.11	福岡県防災賞（知事表彰）受賞
2014.3.23	東日本大震災関連プロジェクト 福岡県防災賞（知事表彰）受賞
2013.7.11	防犯・防災プロジェクト 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
2013.2	ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2012.10.10	登録学生数が1000名を達成
2012.3	地域貢献活動部門賞を受賞
2011.4.21	ふくおか共助社会づくり表彰（福岡県）
2011.3.11	東日本大震災が発生
2010.9	第二回北九州学生フレッゼン大会で「云頭賞」（最高賞）を受賞
2010.4.21	地域共生教育センター開所式
2010.4.1	地域共生教育センター設立

地域共生教育センターの歩み

地域につながる小さな一歩

短期型の地域活動

2024 年度は 120 を超える短期型の地域活動を案内し、その中で 118 名の学生が参加しました。
活動に参加することにより、地域とのつながりや大切さ、人とのコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。

活 動 名 (内容)	主 催 者	参加人数
小倉城竹あかり	小倉城竹あかり実行委員会	2
北九州下関フェニックス試合運営	北九州下関フェニックス	4
ハートグローバル北九州	NPO 法人じぶん未来クラブ	4
バレーボールネーションズ 2024 福岡大会	国際バレーボール連盟	25
令和 7 年（2025 年）北九州市二十歳の記念式典「はたち会議」委員募集	北九州市	1
ボルクバレット北九州ホームゲーム	（一社）UBUNTU FS プロモーション	5
令和 6 年度教育支援室における学生ボランティア	北九州市教育委員会	2
海洋性レクレーションボランティア指導者研修会	みやこ町教育委員会	1
北九州市立子どもの館 HOW ？ 令和 6 年度ボランティア	北九州市立子どもの館	2
小倉城竹あかり（灯籠製作）	小倉城竹あかり実行委員会	7
絶滅に危機から生物を救え！～生物のすみか守り隊～	響灘ビオトープ	2
わっしょい百万夏まつり	わっしょい百万夏まつり振興会	3
山田の森ぐらし	山田緑地管理事務所	2
ブレイルーム【Rainbow-circus】	障がい支援団体【Rainbow-circus】	6
まつりみなみ 2024in 小倉駐屯地	まつりみなみ実行委員会	3
子育てふれあい交流プラザ「絵本カーニバル」	子育てふれあい交流プラザ	1
北九州からあげ王座決定戦	北九州からあげ王座決定戦実行員会	4
第 50 回小倉南区子どもまつり	小倉南区子どもまつり実行委員会	2
夏休みにほんごひろば（外国につながるをもつ子どものための夏休み宿題教室）	公益財団法人 北九州国際交流協会	2
第 21 回チャンピオンカップ国際車いすバスケットボール大会	公益財団法人 北九州市障害者福祉ボランティア協会	3
障がいっ子集合！【みんなの運動会】	一般社団法人レインボーミル	1
レクリエーションキャンプ	社会福祉法人 北九州あゆみの会	2
チャリティーサンタ 運営スタッフ	NPO 法人チャリティーサンタ北九州支部	1
九州 B 級グルメ決定戦	九州 B 級グルメ決定戦実行委員会	1
われら海岸探偵団	まちのカルシウム工房	6
ハートフルコンサート	NPO 法人 百瀬ミュージック	2
藍島探偵団	NPO 法人 SDGs Spiral・九州電力配送電・私たちの未来環境プロジェクト	2
秋の山田の森フェスタ	山田緑地管理事務所	1
中原小学校特別支援学校スクールヘルパー	北九州市立中原小学校	1
関門海峡キャンドルナイト	関門海峡キャンドルナイト実行委員会	3
第 8 回小学生チャレンジ駅伝大会	北九州市青少年育成市民会議	2
サンタが夜宮に降りてくる	北九州市立夜宮青少年センター	1
ヤングサンタ	一般社団法人北九州青年経営者会議	2
こどもまんなか大作戦！	北九州市子ども家庭局こども若者育成課	1
多世代交流未来カフェ	多世代交流「未来カフェ」実行委員会	1
北九州市障害者ボウリング大会	北九州市・北九州市障害者スポーツ協会	1
北九州市ふるさとかるた第 13 回小学生かるた大会	北九州市にぎわい懇話会	4
黒崎こども商店街 2024	黒崎こども商店街実行委員会	1
北九州市二十歳の記念式典	北九州市二十歳の記念式典実行委員会	2
平成竹取伝説	北九州市ビオトープネットワーク研究会	1
小倉南区 PR イベント（北九州マラソン）	小倉南区役所コミュニティ支援課	1
合 計		118

短期型地域活動の紹介

私が活躍できる場所、を見つけました

421Lab. では、1 日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。
学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

バレーボールネーションズリーグ
2024 福岡大会

今回のボランティアでは、運営スタッフとして、観客の誘導や入場、退場の整理、清掃を行いました。世界大会という規模の大きなイベントで 8000 人ほどの観客を整理することは大変でした。いつもは、このようなイベントなどに参加する立場でしたが、今回運営する立場に立ってみて、どうすれば円滑に観客を会場内に誘導できるか、どうすれば観客が気持ちよく観戦を楽しむことができるか考える良いきっかけになったと思います。



文学部比較文化学科 2 年 竹下 諒佑

関門海峡キャンドル

関門海峡キャンドルナイトのボランティア活動の内容としては、前日に使用されたキャンドルの回収作業や、新しいキャンドルの設置作業、ライターを用いてキャンドルの点灯を行いました。昨年は大雨のために中止となってしまい参加出来なかったこともあり、今年は多少の雨はあったものの関門海峡キャンドルナイトが開催できて嬉しく思いました。単純な作業を繰り返し行うなかで作業スピードが上がったなと感じるときや、お客さんが楽しんで観覧していることにやりがいを感じました。



国際環境工学部環境生命工学科 2 年 酒井 梨帆

黒崎こども商店街

このボランティアでは、イベントに必要な道具の出し入れ、こども商店街に参加する子どもたちを番号順に整列させること、子どもたちへの仕事の紹介を行いました。活動時間が 7 時半から 15 時半までと長く、休憩時間もあまり長くなかったため、体力面で疲労を感じましたが、子どもたちと話してみると、「この仕事をしてみたくて参加した」、「仕事はまだ決めていないが楽しみ」など笑顔で話してくれ、このボランティアに参加してよかったなと思いました。



外国語学部国際関係学科 2 年 安岡 綾李

北九州下関フェニックス

私は北九州下関フェニックスの試合運営ボランティアに参加しました。準備は受付やグッズ売り場の設置、選手ののぼり旗の組み立てなどを行いました。また、試合前や試合中は受付やグッズ販売、ファールボール拾いなど、他のボランティアの方と交代しながらいろんな仕事をしました。北九州下関フェニックスは地元の方から愛されていて、選手とサポーターの距離がとても近く、とても楽しく活動できました。



文学部比較文化学科 2 年 笠原 美玲

パブリシティリスト・メディア掲載

2024 年度地域共生教育センター活動記録

会 議					研 修 ・ 報告会		SNS
	地域共生教育センター会議	地域共生教育センター運営部会	事務局会議	学生運営スタッフ会議	学生説明会	運営スタッフ研修・報告会(説明会・相談会)	X Instagram note 更新回数
4月	第1回 4/10	第1回 4/17	第1回 4/2 第2回 4/9 第3回 4/16 第4回 4/23 第5回 4/30	第1回 4/10 第2回 4/17 第3回 4/24	学生説明会	4/5、4/8 新入生向け相談会 4/15～4/26 ブース説明会	X 5回 Instagram 42回
5月	第2回 5/14～5/21(メール)	第2回 5/8	第6回 5/7 第7回 5/14 第8回 5/21 第9回 5/28	第4回 5/8 第5回 5/15 第6回 5/22 第7回 5/29		5/18 前期スタートアップ 5/29 マナー講座 運営スタッフ向け(421Lab.の歴史について)	X 1回 Instagram 25回 note 2回
6月	第3回 6/25～7/2(メール)	第3回 6/5 第4回 6/25～6/30(メール)	第10回 6/4 第11回 6/11 第12回 6/18 第13回 6/25	第8回 6/5 第9回 6/12 第10回 6/19 第11回 6/26	6/10～6/12 (同窓会助成金説明会) 交付決定通知及び 配当金配布	6/5 マナー講座 6/12 マナー講座	Instagram 25回 note 6回
7月	第4回 7/24	第5回 7/2～7/7(メール) 第6回 7/10 第7回 7/16～7/21(メール) 第8回 7/24～7/29(メール)	第14回 7/2 第15回 7/9 第16回 7/16 第17回 7/23 第18回 7/30	第12回 7/3 第13回 7/10 第14回 7/17 第15回 7/24		7/13 リーダー交流会	Instagram 19回 note 7回
8月		第9回 8/8～8/15(メール) 第10回 8/13～8/18(メール) 第11回 8/26～8/31(メール)	第19回 8/6	第16回 8/7 第17回 8/19 第18回 8/26			Instagram 7回
9月		第12回 9/4～9/9(メール)	第20回 9/24	第19回 9/2 第20回 9/9 第21回 9/23 第22回 9/30			Instagram 24回
10月	第5回 10/17～10/22(メール)	第13回 10/2～10/7(メール) 第14回 10/16 第15回 10/29～11/4(メール)	第21回 10/1 第22回 10/8 第23回 10/15 第24回 10/22 第25回 10/29	第23回 10/7 第24回 10/15 第25回 10/21 第26回 10/28		10/19 前期振り返り 後期スタートアップ	Instagram 26回 note 4回
11月			第26回 11/5 第27回 11/12 第28回 11/19 第29回 11/26	第27回 11/5 第28回 11/11 第29回 11/18 第30回 11/25	11/18～11/22 (ラボ・レター、 FULL 原稿作成 説明会)		Instagram 26回 note 3回
12月	第6回 12/19～12/24(メール)	第16回 12/4～12/9(メール) 第17回 12/18	第30回 12/3 第31回 12/10 第32回 12/17 第33回 12/24	第31回 12/2 第32回 12/9 第33回 12/16		12/7 リーダー交流会	Instagram 16回 note 2回
1月		第18回 1/29	第34回 1/7 第35回 1/14 第36回 1/21 第37回 1/28	第34回 1/6 第35回 1/20			Instagram 13回 note 2回
2月	第7回 2/5	第19回 2/12	第38回 2/4 第39回 2/18				
3月							



▲ 2024 年 6 月 8 日号リビング北九州
KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト
防犯・防災プロジェクト MATE's



▲ 2024 年 9 月 24 日 (火) 西日本新聞朝刊
防犯・防災プロジェクト MATE's



▲ 2024 年 11 月 23 日 (土) 西日本新聞朝刊 子ども食堂応援プロジェクト

地域の「チカラ」が必要です

お申し込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域とつながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。下記の流れに沿って地域活動の募集をお受けしていますので、ご不明な点は下記のURLをご参照いただくか、お電話またはメールにてお問い合わせください。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/application02.html>

1.お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆さまは、一度、421Lab.へお越しいたき募集内容などをご相談ください。

2.活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせてお持ちください。提出いただいた資料を基に、活動のタイプを検討させていただき、チラシ・HPなどで周知します。

3.学生募集

掲示板、ウェブサイトなどにて周知します。また、相談に来た学生には、学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。プロジェクト型の活動については説明会にて活動概要のご紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。

4.マッチング

【プロジェクト型、マッチング型】（長期型）
学生からの申し込みがありましたら日程調整等のご連絡をさせていただきます。地域活動の内容確認や調整させていただきます。

【インフォメーション型】（短期型）
421Lab.もしくは地域活動を希望する学生より直接ご担当者へご連絡いたします。

5.地域活動

プロジェクト型、マッチング型では活動に取組む前に事前学習を行います。活動の理解を深めるために取り組み背景や活動趣旨、留意点などのレクチャー、専門的技術や知識に関する講座などをお願いします。また、活動を振り返る発表会や反省会の実施などをお願いいたします。